

序 章 古琉球海外交流史とヨーロッパ史料…………… 3

- 一 古琉球海外交流史と東アジア史料…………… 6
- 二 古琉球史とヨーロッパ史料（一）——ポルトガル史料——… 11
- 三 古琉球史とヨーロッパ史料（二）——スペイン史料など——… 16
- 四 古琉球海外交流史研究の進展…………… 19
- 五 本書の課題と構成…………… 22

第Ⅰ部 世界図と東アジア

第Ⅰ章 世界図の発達と東アジア——プトレマイオス図からカヴェリ図まで…………… 29

- はじめに…………… 29
- 一 プトレマイオス地理学における東部アジア…………… 31
- 二 イスラーム地理学における東部アジア…………… 34
- 三 マルコ・ポーロ系東部アジア図——カタルーニャ図とフラ・マウロ図——… 37

四	新ブトレマイオス図とその影響	41
五	ポルトガルの海域アジア進出とカンティーン図	45
六	カヴェリ図のチンジリナ島と琉球	50
小 結		53
第2章	フランシスコ・ロドリゲスの地図（二）	55
	——ポルトガルの海域アジア進出と世界図——	
	はじめに	55
一	ポルトガルの海域アジア進出とフランシスコ・ロドリゲス	57
二	『フランシスコ・ロドリゲスの書』の伝来と構成	64
三	ロドリゲス図の全体構成	68
四	ロドリゲス図の成立過程	74
小 結		76
第3章	フランシスコ・ロドリゲスの地図（二）	78
	——最初のポルトガル系東アジア図——	
	はじめに	78
一	フランシスコ・ロドリゲスの中国航路誌	79
二	ロドリゲスの東アジア地図（二）——南シナ海域——	84

三	ロドリゲスの東アジア地図(二)——広東と東シナ海域——	89
四	ロドリゲス図からレイネル図へ	94
五	ロドリゲス図とミラー図の琉球	98
小結		102

第4章 ジパンゲとパリオコ——大航海時代初期の世界図と日本——

はじめに	104
一 ジパンゲⅡフィリピン諸島説について	106
二 大航海時代初期の世界図におけるジパンゲ	110
三 ポルトガル世界図におけるパリオコ島	118
四 パリオコの語源をめぐる諸説	123
五 パリオコの語源に関する一仮説——婆羅公をめぐる——	126
小結	131

第Ⅱ部 ゴーレスとレキオス

第5章 ゴーレス再考(一)——アル・グールとゴーレス——	137
はじめに	137
一 ゴーレス論争の進展とその論点	138

二	アラビア語史料のアル・ゲール情報	143
三	マラッカ占領前後、アルブケルケ関係書簡のゴーレス情報	149
四	ゴーレスからレキオスへ	153
小 結		157

第6章 ゴーレス再考（二）——その語源問題をめぐって——

はじめに	159
一 ゴーレスの語源をめぐる諸説	160
二 ゴーレスとゴリ、琉球と高麗	164
三 高麗とアル・ゲール	167
四 アル・ゲールからゴーレスへ	173
小 結	179

第7章 マラッカの琉球人（二）——『歴代宝案』にみる——

はじめに	181
一 港市国家マラッカの発展	183
二 マラッカと海域アジア貿易	188
三 『歴代宝案』のマラッカ通交関係文書——咨文と執照——	195
四 『歴代宝案』にみるマラッカ通交——礼物と交易——	202

五	ラクサマナと琉球・チャンパ	209
六	尚真王時代の琉球と海外貿易	215
小	結	221

第8章 マラッカの琉球人（二）——ポルトガル史料にみる——

はじめに	224
一 アルブケルケ関係書簡にみる琉球人	225
二 『アルブケルケ実録』にみる琉球人	230
三 『アジア史』『ドウアルテ・バルボザの書』にみる琉球人	236
四 トメ・ピレス『東方諸国記』にみる琉球人	243
五 ポルトガル史料にみる琉球のマラッカ貿易	249
小	256

第Ⅲ部 レキオスを求めて

第9章 レキオスは何処に——ポルトガル人の琉球探索と情報収集——

はじめに	261
一 フェルナン・ペレス・デ・アンドラーデの広東渡航	262
二 ジョルジェ・マスカレーニャスの琉球探査と福建渡航	267

三	広州のポルトガル人捕囚による琉球情報	273
四	一五三〇年代の南シナ海貿易と琉球	284
	小結	290
第10章	マゼランとレキオス——スペインのアジア進出と琉球認識——	293
	はじめに	293
一	マゼランのアジア遠征計画と琉球認識	295
二	マゼラン艦隊のイタリア人乗員による琉球情報	302
三	マゼランの後継者たち	309
四	マゼラン艦隊の琉球情報と世界図	313
五	サンタ・クルス『世界全島総誌』の琉球情報	321
六	琉球船のベトナム中部貿易	327
	小結	332
第11章	レキオス到達（一）——一五四二年、ポルトガル人の琉球漂着——	335
	はじめに	335
一	アントニオ・ガルヴァンの琉球情報	337
二	ビリャロボス艦隊の海域アジア遠征	340
三	一五四二年、ポルトガル人の琉球漂着	346

四	一五四二年、ポルトガル人種子島到達説について	353
五	一五四二年、種子島漂着説の検証	358
六	ポルトガル人琉球漂着と海域アジア交易	363
小 結		368
第12章	レキオス到達 (二) — 琉球情報の伝播と変容 —	371
はじめに		371
一	琉球・日本「発見」と世界図	373
二	ロボ・オメン図における南西諸島	378
三	デイオゴ・オメン図と海陸の琉球	384
四	『東洋遍歴記』の琉球と「銀の島々」	390
五	一五七〇年代の東アジア海域と琉球情報	395
六	「アルメニオ」島と金銀島伝承	404
小 結		410
終 章	大航海時代の琉球王国	413
一	ヨーロッパ人の海域アジア進出と琉球情報	414
二	古琉球期海上貿易の長期的動向	418
三	琉球の中継貿易と日本列島	426

四	港市国家としての琉球王国	431
五	「交易の時代」の琉球王国	434

あとがき	443
------	-----

注	61
---	----

文献目録（史料・研究文献）	39
---------------	----

掲載図表一覧	35
--------	----

索引	12
----	----

英文目次・要旨	2
---------	---

序章 古琉球海外交流史とヨーロッパ史料

世界史のなかの古琉球

琉球諸島で農耕が普及しはじめた十二世紀から、十七世紀初頭の島津氏侵攻にいたる五百年間を、「古琉球」と称する。その前半（十二世紀～十四世紀前半）は、各地の城砦（グスク）を拠点に首長（按司）が割拠した時代であり、後半（十四世紀後半～十七世紀初頭）は、按司の連合体である三王国（三山）が、さらに統一琉球王国に統合され、東・東南アジアを結ぶ中継貿易により海洋国家として繁栄した時期である。本書で「古琉球」という場合、基本的には後半の海洋国家時代を指す。

この時代は中国史における明代とほぼ重なり、明朝による朝貢・海禁体制の確立と拡大、その弛緩と解体のプロセスが、古琉球史の進展にも決定的な影響をあたえた。一方、この時代は東南アジアが「交易の時代」を迎え、その最盛期へと向かっていく時期でもあった。そして世界史的には、ポルトガル・スペインの海外進出により大航海時代が始まり、両国の航海活動によってユーラシア・アフリカ・アメリカが直接的に結びつけられ、世界規模の経済が出現する画期だったのである。

この古琉球の歴史は、東アジア史のなかでも、それが本質的に海洋国家・交易国家だった点において、特有の

意義をもつ。中国大陆・日本列島・朝鮮半島に成立した国家は、基本的に農業生産の支配を基盤とする陸上政権であり、海上の航海・交易活動のもつ意味はあくまでマージナルであった。中国・朝鮮・日本の歴代政権のもとでは、膨大な史料が残されてきたが、それらが海の世界について語ることは、時代的・地域的な例外はあるとはいえ、総じて限られている。実際に海上において航海・交易活動に従事した人々が記録を残すことは少なく、海の世界に関する史料は、海域とそこに生きる人々を管理し統制する立場から、もっぱら陸上の政権や知識人によって残されてきた。

これに対し古琉球王朝は、もちろん陸上の農業生産支配の重要性も大きいとはいえ、それ以上に海上貿易を存立基盤とする国家であった。琉球王国は東アジア海域の中国・日本・朝鮮はもとより、東南アジア大陸部・島嶼部にも、福建海商のネットワークを背景として交易圏を広げ、東・南シナ海を結ぶ中継貿易を推進した。この中継貿易は、求心的・硬直的性格が強い明朝の朝貢Ⅱ海禁体制を補完するサブシステムとして、東・東南アジアの交易秩序の不可欠な構成要素となっていた。

本書のねらい

こうした海洋国家的性格は、古琉球期の史料状況にも反映されている。古琉球の内政に関する同時代的な文献史料は、若干の辞令書や碑文などを除けば、きわめて乏しい。これに対し、古琉球期の対外関係については、琉球内外に質量ともに豊富な同時代史料が残されている。琉球史料としては、なによりも十五世紀以来の外交文書を集めた『歴代宝案』がある。海外史料としては、中国・朝鮮・日本史料に、琉球との通交・貿易に関する多くの記録が残され、十六世紀以降は、本書で紹介するヨーロッパ史料も、琉球の海外貿易の実態について多くの情報を提供する。古琉球期の海外交流史研究のためには、このように琉球・東アジア・ヨーロッパの同時代史料

を多角的に利用することが可能であり、また必要なのである。

一九八〇年代以降、琉球王国史の研究は急速に活発化し、琉球王国に関する史料の調査や刊行も精力的に進められていった。しかしその反面、古琉球史に関するヨーロッパ史料の調査研究は、東アジア史料の研究の進展に比べて停滞状況にある。『大航海時代叢書』（岩波書店、一九六五～九二年）に和訳がある一部のポルトガル史料こそ、琉球王国の海外貿易の実態を示す史料として多くの論著で紹介されているが、それ以外のヨーロッパ史料は、古琉球史研究の隆盛にもかかわらず、ほとんど利用されていない。

『歴代宝案』は、漢文文書を通じて行われた公的通航について豊富なデータを提供するが、公的通航に附随して行われた交易活動について語ることは乏しく、公的通航の枠外で行われた密貿易や、漢文文書による通航が行われなかった地域との交流については、ほとんど記されていない。ポルトガルをはじめとするヨーロッパ史料は、これらの『歴代宝案』が語らない古琉球海外交流の諸相について、貴重な情報を提供するのである。

『歴代宝案』を中心とした研究の進展によって、古琉球の海外交流については、同時期の海域アジアの諸地域と比べても、きわめて具体的に生彩に富む歴史像が明らかにされてきた。ただし海域アジアは多言語世界であったために、多くの史料言語を包括的に用いてその全体像を描き出すことは容易ではなく、ややもすれば史料言語ごとに個別分散的な歴史叙述に陥りがちである。

古琉球史についていえば、現存する同時代史料の圧倒的多数は東アジアのリンガ・フランカであった漢文文献であり、その他の言語による史料としては若干の琉球語・日本語史料が残されているにすぎない。従来の古琉球史研究では、漢文史料が提供する豊富な情報によって、琉球王国の対外通航と中継貿易の実態が明らかにされてきた。ただし漢文史料という一つの光源だけでは、光があたらない領域も少なくない。古琉球海外交流の全体像を論じるためには、他の方向からも光をあて、多角的に検討を進めることが必要であろう。

このため本書では、多様な史料群をできるだけ総合的に活用して考察を進める。特にヨーロッパ史料を広汎に利用することによって、漢文史料だけでは十分に論じることができない、東・南シナ海域の交易ネットワークの全体状況のなかで、琉球の海外交流を論じることが試みたい。さらにヨーロッパ史料を体系的に検討することによって、古琉球史を東・東南アジア史の文脈だけではなく、大航海時代におけるヨーロッパ人の世界認識の拡大という文脈のなかに位置づけることもめざしている。

一 古琉球海外交流史と東アジア史料

琉球王国の対外関係については、十四世紀末から十九世紀末にいたる五百年間を通じて、豊富な資料が継続的に残されてきた。特に近世琉球については、評定所文書などの国内史料や清朝の檔案史料が大量に伝存しており、それらの刊行も進みつつある。古琉球の海外交流に関する史料は近世琉球に比べれば限られているが、それでも琉球内外に多様な記録が残されており、最近では村井章介が、これらの史料群を、琉球史料、日本史料、中国・朝鮮史料、ヨーロッパ史料に大別して概述している。⁽¹⁾ここでは村井の論考も参照して、古琉球の海外交流史に関する主要な東アジア史料とその刊行状況を概観しておきたい。

(1) 琉球史料

古琉球の対外関係に関する根本史料は、いうまでもなく『歴代宝案』である。『歴代宝案』は、一四二四～一八六七（永楽十二～同治六）年に琉球王国が収受した外交文書の写しを集成したものであり、第一～三集と別集からなる。古琉球期の文書は、一四二四～一六九七（康熙三十六）年の文書を集めた第一集に収録されており、明朝との往復文書が中心であるが、東南アジアや朝鮮との通交に関する文書も多い。

あとがき

リスボンと那覇、ユーラシア大陸をはさんで東西に位置する港町の雰囲気には、どこか共通するものがある。強い日差しと吹きぬける海風、鮮明で輪郭がくっきりとした風光。ポルトガル王宮であつたサン・ジョルジェ城から石垣越しに望むテージョ河口の景色は、どこか首里城から望む那覇港を思いおこさせる。ただし異なるのは町並みで、戦禍を免れ十八世紀以来の旧市街が残るリスボンに対し、那覇の旧市街は残念ながら沖縄戦ですっかり焼失してしまった。

さて、私が始めて那覇を訪れたのは二〇〇四年十月のことだった。桃木至朗先生が主催する海域アジア史のワークショップに参加するためである。アンソニー・リード氏などの大家をまじえたワークショップでの活発な議論のあとには、首里城や勝連グスクなどを参観し、それらの本土とはまったく異なる景観も新鮮だった。はじめてリスボンを訪れたのはその五年後の二〇〇九年十一月。そのころ参加していた大型科研の最終年に、岡美穂子さんのアレンジで小型のワークショップを開催するためだった。こちらもローデリッヒ・プタック氏などの大家をお招きし、その前に訪れたユーラシア西端のロカ岬から望む大西洋、リスボンで食べた新鮮なイワシの塩焼きなども印象に残っている。ただしこの時点では、リード氏やプタック氏の業績も参照して、ポルトガル史料による琉球史の研究をするとは、まだ予想もしていなかった。

私は二〇〇〇年に九州に赴任して以来、それまでの中国社会史にくわえ、東アジア海域史の研究も進めており、その過程で漢籍や日本史料とともに、和訳や英訳でイベリア史料も利用していた。そのなかで二〇〇五年には、村井章介先生などが提唱した、ポルトガル人の種子島来航を一五四二年だとする新説に対し、日本・漢籍・イベ

リア史料を併用して、それはやはり一五四三年の事件だと確認する論考を発表した。この論考も一つの契機となり、他の何人もの研究者もまじえて、ポルトガル人の日本初来航に関する論争が活発化し、私もつづいて関連する論考をいくつか発表することになる。

ただしどうしても隔靴搔痒の感があったのは、ポルトガル史料を翻訳でしか利用できないことだった。当時は基本史料であるガルヴァン『世界発見記』の日本到達記事でさえ、戦前の岡本良知氏の文語訳に頼らざるをえなかった。さらに欧米学界に一五四三年説を定着させた最重要文献、ゲオルグ・シュールハンマー氏の論考「一五四三年、ポルトガル人の日本発見」も、ポルトガル語のため参照できず、岸野久先生の簡明な紹介に頼るしかなかった。これらの基本文献だけでもなんとか読めないかと、二〇一〇年から少しずつ独学でポルトガル語を学びはじめた。

この年の秋、ブリティッシュ・コロンビア大学博士課程のマリア・ペトルツチさんが訪問研究員として勤務校に滞在することになり、私の授業にも聴講に來られた。ペトルツチさんはイタリアのご出身だが、ポルトガル語ははじめラテン系諸語にすべてご堪能である。そこでこの機会に、逆にペトルツチさんにポルトガル語の勉強会を開いてもらうことにした。テキストにしたのは、前年にリスボンで買った、『波のいただきにて』*Na Crisla da Onça*と題する、ポルトガルの海外発展に関する児童向けの絵本風小冊子である。中国との交易やマカオの成立など、テーマごとに二〇頁前後にまとめたものだ。最初はそれらを読むのおぼつかなかったが、その後も二年ほど学習を続けると、ようやく時間をかけて辞書を引けば、多少は論文も読めるようになってきた。

ただし勤務校にはポルトガル語の文献は皆無に近い。東京や関西に文献調査に行く手もあるが、それならいっそのことリスボンに行った方がいいかもしれない。当時は円高で滞在費も安かった。このため二〇一二年の夏休みに、五週間ほどリスボンに滞在して調査を行うことにした。リスボンでは月決めアパートを借りて、毎日近く

の国立図書館に通った。

さっそく閲覧したのが、シュールハンマー氏の「一五四三年、ポルトガル人の日本発見」である。全三部からなる長大な論文で、その第一部では日本到達の前史として、イスラーム史料やイベリア史料にみえる琉球史料を網羅的に紹介していた。その中には日本の琉球史研究ではあまり注目されていない記事も多いようだ。そこでリスボン国立図書館でそこに引用される史料を集め、帰国後にイスラーム史料の「アル・ゲール」、ポルトガル史料の「ゴーレス」の用例を整理・翻訳して論文にまとめた。それが「ゴーレス再考」（『史淵』第一五〇輯、二〇一三年）である。その後、いわば続編として、マラッカにおける琉球人^{レキオス}の交易活動に関するポルトガル語史料を網羅的に紹介・検討したのが、「マラッカの琉球人——ポルトガル史料にみる——」（『史淵』第一五四輯、二〇一七年）である。

またこの調査の際に、アルマンド・コルテザンによる『東方諸国記』の英訳本に、『フランシスコ・ロドリゲスの書』も併収されていることも知った。著名な『東方諸国記』とは異なり、ロドリゲスの地図帳は大航海時代最初の東アジア図を含むにもかかわらず、日本ではほとんど知られていなかった。ちょうど二〇〇八年には、ジョゼ・マヌエル・ガルシアによる『ロドリゲスの書』の完全版も刊行されており、このテキストによって、ロドリゲスの地図帳の全体構成と成立過程を論じたのが、「フランシスコ・ロドリゲスの地図——ポルトガルの海域アジア進出と世界図——」（『史観』第一七〇冊、二〇一四年）である。さらに「最初のポルトガル系東アジア図——フランシスコ・ロドリゲスの地図——」（『史淵』第一五二輯、二〇一五年）では、ロドリゲス地図帳の東アジア部分を紹介して、そこに記された地理情報を検証した。

二〇一三―一七年には、これらの研究を進めるとともに、毎年夏休みには数週間リスボンに滞在して文献調査を行った。また二〇一三年には、二〇〇九年のワークショップの参加者を中心に、論文集『南蛮・紅毛・唐人

——一六・一七世紀の東アジア海域——」を思文閣出版から刊行している。その翌年、思文閣出版の編集担当者だった田中峰人氏から、私の単著を出版しないかというお誘いをいただき、ご提案に応じて編集をお願いすることになった。私がそれまでに発表した、東アジア海域の交易・交流史に関する論文もかなりの数になっていたが、私としては目下関心をもっているポルトガル関連の研究を、まずまとめてみたいという気持ちが強かった。そこでポルトガル史料を中心とした古琉球海上交流史をテーマとして、執筆を進めることにした。

当初は前記の四本の論文を中心に、三、四章ほどを増補して、比較的コンパクトにまとめるつもりだった。しかし執筆を進めるとともに、大航海時代の史料や地図には、予想以上に古琉球に関する情報が多く残されていることが判ってきた。これらの史料や地図を理解するためには、『歴代宝案』も全面的に検討しなければならない。西回り航路で琉球をめざした、スペインの史料や地図の検証も不可欠だ。ポルトガル人の琉球到達のプロセスやその影響についても、再検証すべき問題は多い。

さらに大航海時代の琉球・日本認識については、戦前以来のフランス東洋学にも、重要な研究成果があることも判ってきた。それらを参照する必要に迫られ、すでに乗りかかった船でもあり、二〇一五年からはやはり独学でフランス語も学びはじめた。ポルトガル語の延長で比較的なじみやすいスペイン語とは異なり、フランス語は同じラテン語系とはいっても、発音や語彙もかなり異なりハードルが高い。幸い、二〇一七・一九年には、カリフォルニアのアズサ・パシフィック大学のジェームス・フジタニさんが、訪問研究員として東洋史研究室に短期滞在されることになった。フジタニさんはパリ大学でフランス近世思想の研究で学位を取得し、現在は大航海時代の東西交渉史を研究されている。そこでフジタニさんの滞在中には、東西交渉史に関するフランス語文献の読書会を開いていただいた。

こうして研究範囲が広がるとともに、原稿の分量は増えつづけ、その完成も延びつづけていった。田中峰人氏には当初の予定から何年もお待たせしながらも、そのつど執筆方針について適切なご提案をいただいた。原稿全体をひとまず書きあげたのは、二〇一七年八月のことである。その後も全体にわたって増補・改訂を行い、古琉球史に関する村井章介先生やグレゴリー・スミッツ氏の新著も参照して、ようやく最終原稿が完成したのは翌年八月であつた。さらに図版や索引の作成、校正などの作業を経て、ポルトガル語を学び始めてからちょうど十年目に本書を刊行することができた。この間、田中氏には本書全体の構成や各章の内容について有益なご助言をいただき、また多くの地図や図版の作成をお願いするとともに、校正に際しては、洋の東西にわたって頻出する多くの固有名詞の誤りや不統一をご指摘いただいた。本書が学術書として十分な水準で刊行できたとすれば、田中氏の細心かつ周到なご尽力によるものであり、この場を借りてあらためて厚く感謝を申しあげたい。

なお本書は、以下の日本学術振興会科学研究費補助金の成果である。基盤研究(B)「西欧・中国・日本史料による一六―一七世紀東アジア海域史の総合的研究」(二〇一〇―一二年度)。基盤研究(B)「一六―一七世紀東アジア海域の交易秩序と人の移動」(二〇一三―一六年度)。基盤研究(B)「一六―一七世紀、東アジア海域の紛争と外交——日本・漢籍・イベリア史料による研究——」(二〇一七―二〇年度)。

また前記四編の既発表論文のうち、「フランススコ・ロドリゲスの地図」は本書第二章、「最初のポルトガル系東アジア図」は第三章、「ゴレス再考」は第五章、「マラッカの琉球人」は第八章の原型となっている。他の八章と序章・終章はほぼすべて書き下ろしである。また既発表論文に基づく四つの章においても、全体的に大幅な増補改訂を加えている。これらの論文はインターネット上でダウンロードできるため、今後も検索・閲覧される可能性があるが、以後私の所論を参照・引用する場合は、以上の論文ではなく、かならず本書の各章に依拠していただきたい。

いうまでもなく、イベリア史料研究には諸先学による精緻で重厚な研究の蓄積がある。初学者の私があえて本書を刊行するのは、いささか勇み足かもしれない。とはいえ古琉球に関するイベリア史料については、日本では岡本良知氏の先駆的業績以来まとまった研究がなく、この問題に関するシュールハンマー氏の業績も紹介されていない。またやはり充実した研究の蓄積がある古琉球史研究においても、『東方諸国記』以外のヨーロッパ史料に対する関心は総じて希薄であった。

古琉球史研究は、一六世紀以前の海域アジア史のなかでも、もともと豊富で多彩な史料に恵まれた分野である。特に『歴代宝案』は、この時代の海域アジア史における、質量ともにもつとも重要な史料群の一つであろう。ただしその『歴代宝案』でさえ、漢文文書による公的通航の外部で行われた、チャンパやルソン、月港やタマンなどでの交易についてはまったく語ることはない。これらの情報を、海域アジアの現場で活動した航海者・交易者の視点から提供するのがヨーロッパ史料なのだ。『歴代宝案』は古琉球史という歴史の舞台を照らし出す強力な主光源である。しかしそれでもよく見えない部分は残る。その舞台上にヨーロッパ史料という副光源を照射することによって、影となつて見えなかった部分がはじめて現れ、あるいはより立体的に照らしだされるのである。

本書で紹介したヨーロッパ史料は、大半が内外の諸研究で引用され、あるいは史料集に収録されたものである。またイスラーム史料は、すべて英訳や和訳などに依拠している。本書ではそれらの公刊史料を、できるだけ広汎に収集し、それを大航海時代の海域アジア史に位置づけることによって、古琉球海域交流史の全体像を描き出すことを試みた。岡本・シュールハンマーなどの諸先学、生田滋・村井章介などの諸先生といった巨人の肩の上に乗って、できるだけ遠くを、より広く眺めようとしたわけである。ただしなにぶん五十近くなつてから独学で始めた語学なので、先学の研究水準に達するのは容易ではなく、訳文や史実の誤りは免れがたいと思われる。各分野の研究者の方々から、ご批評・ご教示をいただければ幸いである。

さらに本書で紹介した刊行史料以外にも、トーレ・ド・トンボ文書館やインディアス総文書館などの、ポルトガルやスペインの機関には、古琉球に関する未紹介の文書史料が、なおかなり残されている可能性がある。本書ではこれらの未公刊史料はほとんど利用するにいたらなかった。しかし古琉球史に関する新たな漢文・和文史料の発見があまり望めないなかで、これらの未公刊史料は、古琉球の海外交流史研究のフロンティアとなりうるかもしれない。本書が将来的にこうした研究が進展していくための、一つの出航地となればと願っている。

二〇二〇年七月

中島楽章

Maritime Asia and Ryukyu in the Age of Commerce: In Quest of the ‘Lequios’

Introduction. Maritime History of Ancient Ryukyu and European Historical Sources

1. East Asian Sources on the Maritime History of Ancient Ryukyu
2. European Sources on Ancient Ryukyu (1): Portuguese Sources
3. European Sources on Ancient Ryukyu (2): Spanish and other Sources
4. Progress of Research on the Maritime History of Ancient Ryukyu
5. Object and Structure of this Book

Section I. East Asia in World Maps up to the 16th Century

Chapter 1. Development of East Asian Cartography in World Maps:
From Ptolemy to Nicolo Caveri

1. Description of Eastern Asia in Ptolemy's *Geographia*
2. Description of Eastern Asia in Islamic Geography
3. Cartography of Eastern Asia Based on Accounts of Marco Polo: The Catalan Atlas and the Map of Fra Mauro
4. Revised Ptolemaic World Maps and their Influence
5. Portuguese Penetration into Maritime Asia and the Cantino Map
6. Cingirina Island Depicted in the Caveri Map as a Prototype of Ryukyu

Chapter 2. The Atlas of Francisco Rodrigues (1): The Portuguese Expansion
to Maritime Asia and the Making of World Maps

1. The Portuguese Expansion to Maritime Asia and the Career of Francisco Rodrigues
2. Transmission and Structure of *The Book of Francisco Rodrigues*
3. General Structure of the Atlas of Francisco Rodrigues
4. Process of Formation of the Atlas of Francisco Rodrigues

Chapter 3. The Atlas of Francisco Rodrigues (2): The First Portuguese Maps of East Asia

1. Francisco Rodrigues' Itinerary of Voyage to China
2. Francisco Rodrigues' Maps of East Asia (1): South China Sea Region
3. Francisco Rodrigues' Maps of East Asia (2): Canton and East China Sea Region
4. From the Atlas of Francisco Rodrigues to the Map of Pedro Reinel
5. Depiction of Ryukyu in the Atlas of Francisco Rodrigues and the Miller Atlas

Chapter 4. Zipangu and Parioco: Depiction of Japan in World Maps up to the Early 16th Century

1. Re-examination of the Hypothesis that Identifies Zipangu as the Philippines
2. Zipangu Depicted in World Maps up to the Early 16th Century
3. Parioco Is. Depicted in Early Portuguese World Maps
4. Argumentation on the Etymology of Parioco
5. A Hypothesis on the Etymology of Parioco: With Reference to 'Poluogong'

Section II. The Gores and the Lequios

Chapter 5. Re-examination of the Gores (1): Al-Ghūr and the Gores

1. Development of Debates on the Gores and their Moot Points
2. Information on Al-Ghūr Seen in Arabic Sources
3. Information on the Gores Seen in Letters Relating to Afonso de Albuquerque
4. From the Gores to the Lequios

Chapter 6. Re-examination of Gores (2): On the Etymology of Gores

1. Debates on Etymology of the Gores
2. The Gores and the Gori, Ryukyu and Gaoli (Korea)
3. Gaoli and Al-Ghūr
4. From Al-Ghūr to the Gores

Chapter 7. Ryukyuans in Malacca (1): Seen from the *Rekidai Hōan*

1. Development of the Malacca Sultanate as a Port State
2. The Malacca Sultanate and Maritime Asian Trade
3. Documents on Diplomatic Relations with Malacca in the *Rekidai Hōan*: *Ciwen* and *Zhizhao*
4. Diplomatic Relations with Malacca Seen from the *Rekidai Hōan*: Gifts and Trade
5. Laksamana, Ryukyu and Champa
6. Ryukyuan Maritime Trade during the Era of King Shō Shin

Chapter 8. Ryukyuans in Malacca (2): Seen from Portuguese Sources

1. Ryukyuans Seen from Letters Relating to Afonso de Albuquerque
2. Ryukyuans Seen from the *Commentary of Afonso de Albuquerque*
3. Ryukyuans Seen from *Décadas da Ásia* and the *Book of Duarte Barbosa*
4. Ryukyuans Seen from the *Suma Oriental*
5. Ryukyuan Trade with Malacca Seen from Portuguese Sources

Section III. In Quest of the 'Lequios'

Chapter 9. Where are the Lequios?: Portuguese Quests to the Lequios and the Collection of Information on them

1. Fernão Perez de Andrade's Voyage to Canton
2. Jorge Mascarenhas' Quest to Ryukyu and Voyage to Fujian
3. Information on Ryukyu Sent by Portuguese Captives in Canton
4. South China Sea Trade and Ryukyu during the 1530's

Chapter 10. Magellan and the Lequios: The Spanish Voyages to Asia and their Recognition of Ryukyu

1. Scheme of Magellan's Expedition to Asia and his Recognition of Ryukyu
2. Information on Ryukyu Recorded by the Crew Members of Magellan's Fleet
3. Magellan's Successors
4. Influence on World Maps of Information on Ryukyu Provided by Magellan's Fleet

5. Information on Ryukyu in Santa Cruz's *Islario General de Todas las Islas del Mundo*
6. Trading Voyages of Ryukyuan Vessels to Central Vietnam

Chapter 11. The First Arrival on the Lequios (1): Portuguese Drift to Ryukyu in 1542

1. Information on Ryukyu Recorded by Antonio Garvão
2. The Villalobos Expedition to Maritime Asia
3. Portuguese Drift to Ryukyu in 1542
4. On Theories Regarding the Portuguese Arrival on Tanegashima in 1542
5. Re-examination of Theories Regarding the Portuguese Drift to Tanegashima in 1542
6. The Portuguese Drift to Ryukyu and the Maritime Asian Trade

Chapter 12. The First Arrival on the Lequios (2): Transmission and Transformation of Information on Ryukyu

1. The Influence on World Maps of the 'Discovery' of Ryukyu and Japan
2. The Ryukyu Islands Depicted in Lopo Homen's Planisphere in 1542
3. Maritime and Inland Ryukyu depicted in Diogo Homen's Atlases
4. Description of Ryukyu in *Peregrinação* and the 'Islands of Silver'
5. Maritime East Asia in 1570s and Information on Ryukyu
6. The 'Armenian Island' and the Legend of the Islands of Gold and Silver

Conclusion. The Ryukyu Kingdom in the Age of Commerce

1. European Penetration into Maritime Asia and Information on Ryukyu
2. Long-term Trend of Maritime Trade during Ancient Ryukyu
3. Ryukyuan Intermediary Trade and Medieval Japan
4. Ryukyu Kingdom as a Port State
5. Ryukyu Kingdom in 'the Age of Commerce'

Summary

The Introduction surveys the main sources concerning the maritime history of Ancient Ryukyu 琉球. As for Asian sources, Ryukyuan sources, especially the *Rekidai Hōan* 歴代宝案, offers rich information on Ancient Ryukyu. As for Western sources, the Portuguese sources offer many important records on the Ryukyuan trading activities in maritime Asia. Spanish, Italian and Arabic sources also include useful records. This volume widely introduces the European sources relating to Ancient Ryukyu, while consulting relevant Ryukyuan, Chinese, Korean and Arabic sources, as well as discussing the development of recognition of Ryukyu by the Europeans, the actual conditions of Ryukyuan maritime trade, and the process of the European arrival in Ryukyu in the 1540's.

Section 1 surveys the depiction of East Asia in European world maps up to the early 16th century, introduces the earlier Portuguese maps that depicted East Asia including Ryukyu, and investigates development of the depiction of Japan in world maps in the 15th and 16th centuries.

In Ptolemaic geography, Sinae (China) was located at the eastern shore of a landlocked Indian Ocean. Islamic geography inherited the Ptolemaic geography, but offered more realistic images of East Asia. In the 14th and 15th centuries, the Catalan Atlas and Fra Mauro map described East Asia in detail based on Marco Polo's accounts. Revised Ptolemaic maps produced from the late 15th century depicted a fantastical giant peninsula on the eastern shore of the Indian Ocean. On the other hand, the Cantino planisphere (1502) depicted maritime Asia far more empirically based on on-site information collected by the Portuguese, and the Caveri planisphere (1505) depicted Cingirina Island, which seems to have originated from the information on Ryukyu (Chapter 1).

The Atlas of Francisco Rodrigues (c.1515) is the first European map to depict maritime Eastern Asia on the basis of on-site information. Francisco Rodrigues was a pilot and mapmaker who was active in the front line of the

Portuguese expansion into maritime Asia in the early 16th century. When Afonso de Albuquerque occupied Malacca in 1511, he acquired a large chart from a Javanese pilot and ordered Rodrigues to copy it. An existent Atlas of Francisco Rodrigues is included among his manuscripts, together with a copy of Tomé Pires's *Suma Oriental*. The atlas consists both of the Portuguese-style maps and the maps based on the Javanese charts, the latter covering the Bay of Bengal, the Java Sea, and the South and East China Seas (Chapter 2).

The Atlas of Francisco Rodrigues depicted maritime East Asia based on the charts of the Javanese pilot. Folio 39 of these charts depicts Lequeollee Island, which seems to have some kind of relation to Ryukyu in the northern part of the South China Sea, and folio 41 depicts Parpoquo (Parioco) Island, which correspond to Japan in the eastern waters of China. In particular, folio 42 illustrates the main island of Lequoes (Ryukyu), noting that it produces wheat and copper, both of which were main exports from Ryukyu to Malacca. The Atlas Miller (1519) produced by Pedro and Jorge Reinel also illustrated islands corresponding to Lequeollee and Lequoes in a similar fashion as the Atlas of Rodrigues in the southeastern waters of China (Chapter 3).

From the late medieval period, Zipangu was often depicted in European world maps as a golden island. In contrast, the Atlas of Rodrigues and the Atlas Miller illustrated Parioco (Parpoco) Island corresponding to Japan in the eastern waters of China. The origin of the word Parioco was Fariyūk, as recorded in Arabic navigation texts, and it seems that the word Fariyūk originated from Poluogong 婆羅公, which indicated the Sakisima 先島 Islands located in southwestward of Ryukyu. It is estimated that in the 14th century, accompanied by the growth of maritime trade between the Sakisima Islands and Fujian, Arabic merchants transmitted the word Poluogong as Fariyūk, which was further transmitted to the Portuguese as Parioco (Chapter 4).

Section 2 introduces information on al-Ghūr, or the Gores, indicating Ryukyu, recorded in Arabic and Portuguese texts, investigates the etymology of the names, and discusses Ryukyuan trading activities in Malacca mainly by analyzing Ryukyuan and Portuguese sources.

Some Arabic navigation texts written in the late 15th and early 16th centuries referred to Ryukyu as 'al-Ghūr,' adding that the Javanese termed it 'Likiwū'. They also recorded that 'al-Ghūr' was located in the Eastern waters of China and produced iron and sharp swords. The Portuguese, who arrived in Malacca and occupied it in the early 16th century, acquired information on 'al-Ghūr' from an Arabic seafarer, and referred to Ryukyuans who made trading voyages to Malacca as 'Gores.' From about 1514, however, The Portuguese began to call the Ryukyuans Luquios/Lequeos, which originated from the word 'Ryukyu,' and was more widely used by Asian seafarers in Malacca (Chapter 5).

As for the etymology of the name of 'Gores,' there are thus far no widely accepted views. During the 14th century, maritime interaction along the 'Southern Islands route' (Nantōro 南島路), which linked Korea, Kyushu, the Ryukyu Islands and Fujian, was gradually activated. It seems that the Koreans and Ryukyuans who voyaged to Fujian via the 'Southern Islands route' were generically regarded as having come from 'Koule' (Southern Fujian pronunciation of 'Goryeo' 高麗), and Arabic merchants in Fujian used the term 'al-Ghūr' to refer to 'Koule.' On the other hand, it is considered that the Ryukyuans who voyaged to Java in the 15th century were called 'Likiwū' by the native Javanese, and this name was transmitted to West Asia through Arabic merchants (Chapter 6).

As for Ryukyuan trade with Malacca, rich information is recorded both in Ryukyuan and Portuguese sources. According to *Rekidai Hōan* and other sources, the Ryukyu Kingdom dispatched trading vessels to the Malacca Sultanate a total of at least 18 times from the mid-15th to the early 16th centuries. During this period, owing to the maritime prohibition policy of the Ming, the supply of Chinese merchandise was greatly decreased and Ryukyuan vessels played an important role in the intermediate export of Chinese products, such as celadon, to the Southeast Asian market. During the transition period between the first and the second Shō 尚 dynasties, however, it is recorded that Ryukyuans caused a disturbance in Malacca, or fought a battle against the Lê 黎 Dynasty, allying with the Chams on the Vietnamese coast (Chapter 7).

The Portuguese, who conquered the Malacca Sultanate in 1511, left many

records on Lequios (Ryukyuans) who engaged in trade with Malacca up to the Portuguese occupation. These records indicate that Ryukyuan vessels anchored in Malacca more frequently than is recorded in the *Rekidai Hōan*. The Ryukyuans exported Chinese (silk, porcelain etc.), Japanese (gold, copper, etc.) and Ryukyuan (wheat, etc.) products to Malacca, and imported tropical products (pepper, spices, etc.). Trading activities of Ryukyuan vessels were carried out in an orderly and systematic manner, and the Portuguese invariably had a positive image of the Ryukyuans' personalities and behavior. Nevertheless, the Ryukyuans retreated from trade with Malacca with 1512 as the final date, partly due to the decrease in intermediate exports of tropical products to Korea (Chapter 8).

Section 3 investigates the voyages of exploration in the quest for East Asia, including Lequios (Ryukyu), by the Portuguese and Spanish, and examines the process and background of the first arrival of the Portuguese in Ryukyu in 1542 and its influence on the recognition of Ryukyu in Europe.

After the Ryukyuan retreat from Malacca, the Portuguese had contact with Ryukyuans in Ayutthaya and Patani. In 1517, the fleet led by Fernão Peres de Andrade encountered a Ryukyu vessel in Tamão, a base of informal trade in inshore Canton. To explore Ryukyu, Andrade dispatched a vessel led by Jorge Mascarenhas, who turned back from Fujian on the way to Ryukyu. Vasco Calvo, who was captive in Canton after the Portuguese fleet was attacked by the Ming navy in 1521, secretly sent a letter in 1536, in which he testified that Ryukyuan and Fujian traders engaged in a brisk smuggling trade based on the port of Yuegang 月港 in southern Fujian. Additionally, a Portuguese chronicle recorded that the Ryukyuans had trading relations with Brunei in the 1530's (Chapter 9).

In rivalry with the Portuguese, the Spanish attempted to open up a sea-lane to maritime Asia by crossing the Pacific Ocean westward. It is possible that Magellan's fleet, which reached the Philippines in 1521, intended to explore Lequios (Ryukyu) before seeking the Molucca Islands. A few Italian crew of the fleet recorded information on the 'Lechii' (Ryukyuans) they obtained during the

expedition. Planispheres made by Diogo Ribeiro in Seville in the 1520's described the 'Ryukyuan sea-lane bound for Borneo' in the South China Sea, probably based on information brought by the crew of Magellan's fleet. In the 1540's, Spanish cosmographer Alonso de Santa Cruz referred to the Ryukyuan sea-lane bound for Cape Varela on the Vietnamese coast, which was one of the actual destinations of Ryukyuan vessels (Chapter 10).

In 1542, a Spanish Fleet led by Ruy López de Villalobos set sail from Mexico to the Philippines, along with an intention to make inroads in trade with Ryukyu and China. In the very same year, two Portuguese escaped from a vessel of Diogo de Freitas anchored at Ayutthaya, and drifted ashore on Lequios on the way to China. In late 1544, Freitas visited the Molucca Islands, transmitted the information concerning the Portuguese drift to Ryukyu to Escalante Alvarado, a factor of Villalobos's fleet, who later recorded the information in his report submitted to the Vice-king of Mexico. Some scholars discuss the notion that the 'Lequios' referred to in his report indicates Tanegashima, not Ryukyu, and that Alvarado reported the fact that the Portuguese first reached Japan in 1542, but this discussion lacks both credibility and persuasive arguments (Chapter 11).

Information regarding the first arrival of the Portuguese in Ryukyu in 1542 and their first arrival in Japan in 1543 was reflected in Portuguese world maps made after the 1550's. Especially, Lopo Homen's Planisphere (1554) concretely depicted the Ryukyu Islands based on reports brought by Portuguese voyaging to Japan. Fernão Mendes Pinto described Ryukyu as being a great producer of silver in his *Peregrinação*, reflecting the fact that the Ryukyuan Kingdom re-exported large amounts of Japanese silver. From the late 16th century, while the Portuguese gradually lost interest in Ryukyu with the expansion of the Macao-Japan trade, the Spanish came to pay more attention to Ryukyu with their colonization of the Philippines, and the legendary stories of an 'Armenian Island' abundant in silver stemmed from the information on Ryukyu (Chapter 12).

The Conclusion summarizes discussion in this volume and re-examines the

development of Ryukyuan overseas trade. The European sources analyzed in this volume indicate that the Ryukyu Kingdom engaged in overseas trade more broadly and actively than recorded in the *Rekidai Hōan*. Recently, scholars often discuss the notion that Ryukyuan overseas trade gradually declined from the mid-15th century with the decrease in tributary trade with the Ming. Investigations in this volume, however, suggest that the growth of both smuggling trade with Fujian and intermediary trade with Japan, Korea and Southeast Asia sufficiently made up for the decline in tributary trade. The Ryukyu Kingdom followed a similar trajectory with port cities in Southeast Asia, namely, domestic political and economic integration and expansion of territory as a response to the expansion of maritime trade in the “Age of Commerce.”

索引

- 一、索引項目は原則として本文中の語句に限り、注や図表中の語句については採録していない。
- 二、歴史上の人名については、漢字表記の人名を除き、アルファベット表記を附した。
- 三、地名などに対し複数の表記がある場合は、原則として一項目にまとめ、[]内に異なる表記を附記した。
- 四、地名については、全書にわたって頻出する琉球やポルトガルは省略し、重要性の低い地名も省いた。

【I 人名】

あ行

- アギーレ, アンドレス・デ Aguirre, Andrés de405-409
アフォンソ 5 世 Afonso V40, 44, 46
アブレウ, アントニオ・デ Abreu, António de59, 60, 75, 236
アラウジョ, ルイ・デ Araújo, Rui de150, 151, 226, 227, 236, 250-253, 255
アラウッディン・リアーヤット・シャー Alauddin Riayat Shah197
アル・イドリースイー al-Idrīsī35, 37, 168, 169
アル・フワーリズミー al-Khuwārizmī34
アルヴァレス, ジョルジェ (16世紀初) Álvares, Jorge61-63, 83, 90, 263-265, 271, 274
アルヴァレス, ジョルジェ (16世紀中期) Álvares, Jorge379, 384, 390, 410
アルヴィン, ジョアン・ロペス・デ Alvin, João Lopes de74
アルバラード, ペドロ・デ Alvarado, Pedro de338-340, 344
アルブケルケ, アフォンソ・デ Albuquerque, Afonso de12, 13, 59, 60, 70, 71, 73, 75, 76, 83, 84, 92, 95, 99, 123, 138, 143, 149-154, 224-236, 239, 242, 243, 251, 261, 264, 296, 299, 365, 376
アルブケルケ, ジョルジェ・デ Albuquerque, Jorge de229
アルブケルケ, ブラス・デ Albuquerque, Braz de15, 123, 138, 156, 230, 251, 254
アルブケルケ, フランシスコ・デ Albuquerque, Francisco de153, 228
アルベルガリア, ロボ・ソアレス・デ Albergaria, Lopo Soares de61, 62, 75, 76, 265
アルメイダ, フランシスコ・デ Armenda, Francisco de58, 238, 296
アンドラーデ, シマン・デ Andrade, Simão de62, 272-274, 386
アンドラーデ, フェルナン・ペレス・デ Andrade, Fernão Peres de62, 157, 243, 262-273, 290, 293, 416
イスカンドル・シャー Iskandar Shah184, 212
イブン・サイド・アル・マグリビー Ibn Sa'īd al-Maghribī170
イブン・バットゥータ Ibn Battūta161
イブン・ハルドゥーン Ibn Khaldūn37

イブン・フルダーズベ Ibn Khurrdādhbeh	34, 35, 113
イブン・マージド Ibn Mājid al-Najdi	18, 143-147, 149, 161-163, 169-171, 176-178, 180, 277
ヴェーリオ, バルトメロウ Velho, Bartolomeu	388
ヴァルテーマ, ルドヴィコ・ディ Varthema, Ludovico di	72
ヴァルトゼーミュラー, マルティン Waldseemüller, Martin	44, 50, 117
ヴィエイラ, クリストヴァン Vieira, Christóvão	63, 275, 276
ヴィレラ, ガスパル Vilela, Gaspar	165, 397, 398
ヴェーリオ, バルトロメウ Velho, Bartolomeu	404
ウナムーノ, ペドロ・デ Unamuno, Pedro de	409
ウルダネタ, アンドレス・デ Urdaneta, Andrés de	311, 399, 400, 406, 407
エスカランテ・アルバラード, ガルシア・デ Escalante Alvarado, García de	17, 26, 336, 346-365, 372, 375, 394, 407, 408, 417
エムポリ, ジョヴァンニ・ダ Empoli, Giovanni da	154, 155, 166, 167, 180, 307
コルテス, エルナン Cortés, Hernán	310, 311, 337, 338
エレディア, マヌエル・ゴディーニョ・デ Erédia, Manuel Godinho de	386
エンシソ, マルティン・フェルナンデス・デ Enciso, Martín Fernández de	295
エンリケ航海王子 Infante Dom Henrique	45, 46
王直(五峯)	356
大友宗麟	364
オメン, デイオゴ Homen, Diogo	372, 380, 382, 384-389, 410, 417
オメン, ロポ Homen, Lopo	97, 120, 299, 300, 372, 376, 377-384, 390, 410, 417
オルテリウス, アブラハム Ortelius, Abraham	378, 389, 405

か行

カヴェリ, ニコロ Caveri, Nicolo	51
郭汝霖	279
カスタンニェダ, フェルナン・ロペス・デ Castanheda, Fernão Lopes de	14, 15, 284, 315
ガスタルディ, ジャコモ Gastaldi, Giacomo	318
カストロ, ジョルジェ・デ Castro, Jorge de	342, 392, 393
嘉靖帝	292, 367, 368
カタリナ王妃 raihna Catarina	337
カトリーヌ・ド・メディシス Catherine de Médicis	97
カブラル, ペドロ・アルヴァレス Cabral, Pedro Álvares	46, 47, 73
カボット, セバスティアン Cabot, Sebastián	311, 313, 316, 317, 321, 323, 376
ガマ, ヴァスコ・ダ Gama, Vasco da	46, 47, 52, 58, 144
ガリ, フランシスコ Galí, Francisco	405, 406, 409
ガルヴァン, アントニオ Galvão, António	336-340, 353-362
カルヴォ, ヴァスコ Calvo, Vasco	274-284, 290, 291, 416
カルヴォ, デイオゴ Calvo, Diogo	13, 62, 63, 247, 330
カルロス 1 世 Carlos I	293, 295, 298, 299, 302, 310-314, 317, 319, 321, 322, 326, 340, 342, 346

カンティーノ, アルベルト Cantino, Alberto	47
クーニャ, ヌーノ・ダ Cunha, Nuno da	368
グティエレス, サンチョ Gutiérrez, Sancho	375, 376
グティエレス, ディエゴ Gutiérrez, Diego	376
グリハルバ, エルナンド・デ Grijalva, Hernando de	337, 339
クルス, ガスパール・ダ Cruz, Gaspar da	14, 91, 387, 395-397
クレスケス, アブラハム Cresques, Abraham	39
ゴイス, ダミアン・デ Góis, Damião de	15, 156, 269-271
コエリョ, ドゥアルテ Coelho, Duarte	273
コレア, ガスパル Correa, Gaspar	15, 156
コロンブス, クリストファー[コロンボ, クリストフォロ Colombo, Cristoforo]	44-46, 115, 117, 293
コンタリーニ, ジョバンニ・マッテオ Contarini, Giovanni Matteo	44, 116
コンティ, ニッコロ・デ Conti, Niccolò de	40, 48

さ行

サーベドラ, アルバロ・デ Saavedra, Alvaro de	311, 339, 343
ザビエル, フランシスコ Xavier, Francisco	346, 364, 384, 390, 393, 394, 397, 404
サンタ・クルス, アロンソ・デ Santa Cruz, Alonso de	17, 294, 321-327, 331, 345
サンデ, フランシスコ・デ Sande, Francisco de	401
シェーネル, ヨハネス Schöner, Johannes	53, 117
朱紇	276
ジョアン 2 世 João II	46
ジョアン 3 世 João III	236, 312, 342-344, 378
尚永王	403
尚円王(金丸)	197, 207, 208, 222, 279, 436
尚真王	197, 209, 215-217, 220, 221, 223, 230, 255, 278, 279, 331, 366, 367, 422, 425, 433-439
尚清王	292
尚泰久王	200, 208
尚徳王	197, 208
申叔舟	9, 218
スライマーン・アル・マフリー Sulaymān al-Mahri	18, 34, 122, 125, 130, 132, 147-149
成化帝	208, 211, 223
聖宗(黎朝)	211, 212
正徳帝	63, 274
ゼイモト, フランシスコ Zeimoto, Francisco	355, 357
セケイラ, ディオゴ・ロペス・デ Sequeira, Diogo Lopes de	58, 150, 227, 238, 296, 299
雪舟	233
セラソ, フランシスコ Serrão, Francisco	59, 60, 296
ソリス, フアン・ディアス・デ Solís, Juan Díaz de	295

た行

種子島時堯	356, 357
陳侃	9, 233, 247, 253, 279, 280
陳貴	292, 367
ディアス, バルトロメウ Dias, Bartoromeu	42, 46
ディエス, ペロ Diez, Pero	347, 352, 353, 360, 361, 369, 394, 408
テイシェイラ, ドミンゴス Teixeira, Domingos	388
テイシェイラ, ルイス Teixeira, Luís	389
鄭若曾	384
鄭舜功	280, 358, 384
鄭和	176, 184, 203, 222, 418, 420
デセリエル, ピエール Desceliers, Pierre	317
トスカネリ, パオロ・ダル・ポッツォ Toscanelli, Paolo dal Pozzo	44, 115
トランシルヴァーノ, マクシミリアーノ Transilvano, Maximiliano	319

な行

ニナ・シャトウ Nina Chetu	227, 236
ニリオ, ガスバル Nilio, Gaspar	344, 345
ヌーネス・パレット, ベルシオール Nunes Barreto, Belchior	364, 390, 397
ノブレ, ミゲル Nobre, Miguell	338, 339
ノローニャ, ガルシア・デ Noronha, Garcia de	76

は行

バッティスタ, ジョバンニ Battista, Giovanni	306
パラメスワラ Parameswara	184
バルボザ, ドゥアルテ Barbosa, Duarte	13, 14, 240-243, 247, 250-254, 258, 261, 269, 297
バルボザ, ドゥアルテ(マゼラン義弟) Barbosa, Duarte	297, 302
バロス, ジョアン・デ Barros, João de	14, 62, 156, 252, 235-239, 263, 265, 268, 270, 271, 359, 363, 372, 375
ハン・トゥア Hang Tuah	209
パンカルド, レオン Pancaldo, León	17, 305-308, 332
ピーリー・レイス Piri Reis	73, 117
ピガフェッタ, アントニオ Pigafetta, Antonio	17, 302-305, 307, 308, 320, 332, 386
ビスカイノ, セバスティアン Vizcaino, Sebastián	409
ビリャロボス, ルイ・ロベス・デ Villalobos, Ruy López de	17, 26, 322, 323, 333, 334, 336, 340-347, 352, 369, 392-395, 399, 417
ピレス, トメ Pires, Tomé	13, 14, 56, 61-63, 65, 66, 74, 76, 90, 91, 94, 95, 102, 105, 108, 110, 138, 142, 155, 164-167, 177, 180, 187, 195, 200, 205, 206, 213, 225, 242-255, 261, 265, 267, 272-275, 285, 287, 303, 313, 365, 375, 385
ピレス・コタン, ジェロニモ Pires Cotão, Jerónimo	342, 343
ピント, フェルナン・メンデス Pinto, Fernão Mendes	

.....	15, 327-331, 363, 364, 365, 372, 390, 395, 397, 417
ファリヤ, アントニオ・デ Faria, António de	328, 329
フィゲイラ, ルイ Figueira, Ruy	75
フィヌ, オロンズ Oronce Fine	321
フェリペ2世 Felipe II	322, 342, 399
フォレストイ, ジャコモ・フィリッポ Foresti, Giacomo Filippo	387
ブオンデルモンティ, クリストフォロ Buondelmonti, Cristoforo	42, 112
プトレマイオス, クラウディオ Ptolemaios, Klaudios	31-34, 40, 44, 54, 57, 95, 100, 104, 118, 120, 319, 387
フビライ Khubilai Khan	39, 107, 109
ブランシウス, ベトルス Plancius, Petrus	87
フランソワ1世 François I	97, 299, 378
ブリト, ルイ・デ Brito, Ruy de	154, 229, 234
フリシウス, ヘンマ Frisius, Gemma	319, 320
フレイタス, ジョルダン・デ Freitas, Jordão de	343-348, 351, 361, 363
フレイタス, デイオゴ・デ Freitas, Diogo de	347-348, 360-363, 366, 367, 369, 394, 407, 408, 417
文之玄昌	10, 353
ペイショット, アントニオ Peixoto, António	355
ベハイム, マルティン Behaim, Martin	43, 44, 113, 115, 117, 119, 380, 404
ペレイラ, ゴンサロ Pereira, Gonçalo	284
ペレストレロ, ラファエル Perestrelo, Rafael	61, 263-265
ポーロ, マルコ Polo, Marco	16, 25, 29-31, 39, 41, 48, 50, 52-54, 57, 70, 78, 95, 103-110, 113, 115, 118, 131, 132, 166, 170, 172, 179, 248, 275, 314, 322, 325, 326, 404, 415
ホジャ・フサイン Khoja Husain	213, 234

ま行

マウロ, フラ Mauro, Fra	40
マスカレーニヤス, ジョルジェ・デ Mascarenhas, Jorge de	263, 267-272, 276, 290, 416
マゼラン, フェルナンド[マガリャンイス, フェルナン・デ Magalhães, Fernão de]	17, 25, 284, 292-310, 313-315, 318, 319, 322, 326, 327, 332, 333, 335, 371, 400, 417, 418
マヌエル1世 Manuel I	46, 59, 60, 62, 70, 84, 97, 99, 151, 152, 155, 156, 264, 265, 269, 272, 299, 378
マフムード・シャー Mahmud Shah	185, 189, 197, 213, 221, 225, 242, 253
マルテルス, ヘンリクス・ゲルマヌス Martellus, Henricus Germanus	42-44, 112, 113, 118, 119, 131
マンスール・シャー Mansur Shah	185, 197, 200, 206, 207, 209
ムザファル・シャー Muzaffar Shah	185, 200
ムシス, ユリウス・デ Musis, Julius de	320
メアリー1世 Mary I	384
メネゼス, ドゥアルテ・デ Meneses, Duarte de	305
メルカトル, ゲラルドゥス Mercator, Gerardus	318-320, 377

メロ・コウティニーニョ, マルティン・アフォンソ・デ Melo Coutinho, Martim Afonso de	274
メンドーサ, アントニオ・デ Mendoza, Antonio de	338-340, 344, 347, 360
モタ, アントニオ・ダ Mota, António da	354, 357

ら行

ラーダ, マルティン・ダ Rada, Martín da	401-403
ラシード・ウッディーン Rashīd al-Dīn	109, 170, 179
ラムージョ, ジョバンニ・バッティスタ Ramusio, Giovanni Battista	106, 318
リベイロ, ディオゴ Ribeiro, Diogo	89, 300, 314, 321, 324, 326, 327, 373, 378, 410
リマホン(林鳳) Limahong	402
ルイシュ, ヨハンネス Ruysch, Johannes	44, 116
ルイス, ラザロ Luís, Lázaro	389
ルスティケッロ・ダ・ピーサ Rustichello da Pisa	106
ルブルク, ギョーム・ド Rubruc, Guillelmus de	171
レイネル, ジョルジェ Reinel, Jorge	96-102, 119, 120, 126, 131, 132, 299-302, 314, 378, 415
レイネル, ペドロ Reinel, Pedro	94-102, 118-122, 126, 131, 132, 299-302, 314, 378, 415
レオ10世 Leo X	151, 152, 255, 302, 307
レガスピ, ミゲル・ロベス・デ Legazpi, Miguel López de	399-401, 406
ロアイサ, ガルシア・ホフレ・デ Loaisa, García Jofre de	310, 312, 317, 339, 343, 399
ロアルカ, ミゲル・デ Loarca, Miguel de	403
ロット, ジャン Rotz, Jean	317
ロドリゲス, シモン Rodrigues, Simão	394
ロドリゲス, フランシスコ Rodrigues, Fransisco	24, 54-103, 105, 119, 120, 122, 131, 151, 243, 273, 274, 300, 316, 331, 358, 373

【Ⅱ 研究者名】

あ行

赤嶺守……………20, 21
 秋山謙蔵……140, 141, 161, 163, 164, 181
 アグノエル, シヤルル
 ……………124, 141, 163, 164, 168
 安里延……………19, 141, 161, 181
 生田滋……………57, 142, 184, 244, 433
 池田榮治……………434
 池谷望子……………20
 石井米雄……………182, 432
 ウェイド, ジェフ……………431, 432, 434
 上里隆史……………20, 432, 433
 内田晶子……………20, 182
 内田銀蔵……………139, 140, 161
 エドソン, イヴリン……………30
 応地利明……………30, 45
 岡本弘道……………20, 216, 217, 422, 425, 433
 岡本良知……22, 24, 79, 106, 140, 141, 160,
 181, 225, 263, 298, 299, 373, 376, 408
 小野正敏……………426, 428

か行

カストロ, シャヴィエル・デ
 ……………106, 110, 373
 ガルシア, ジョゼ・マヌエル
 ……56, 65, 66, 75, 76, 79, 82, 83, 86-88, 98
 川島元次郎……………139
 カンメラ, アルベール……………86-88
 菊池百里子……………214
 岸野久……………347
 クライナー, ヨーゼフ……………382
 グレイ・バーチ, ウォルター・デ
 ……………139, 140
 クロフォード, ジョン……………139
 桑田六郎……………141, 161
 ゲルプケ, ソレウイン……………56
 合田昌史……………57, 295, 299-301
 五野井隆史……………397
 小葉田淳

……………7, 19, 141, 181-183, 197, 204, 408
 コルテザン, アルマンド……………16, 30, 45,
 52, 56, 57, 65, 74, 75, 79, 82, 87, 88, 90,
 94, 97, 106, 124-126, 131, 132, 142, 248,
 373

さ行

坂巻俊三……………182
 柴謙太郎……………139, 160
 清水紘一……………354, 358, 360
 清水有子……………340, 347
 シャウ, カルロス・マルティネス…340
 シャシニユー, エドモン……………408
 謝必震……………20
 シュールハンマー, ゲオルグ……22, 24,
 142, 143, 150, 164, 168, 225, 351, 354,
 357
 シュレーゲル, グスタフ……………139, 160
 スアレス, トマス……………30
 スミッツ, グレゴリー……………21
 瀬戸哲也……………428
 ソウザ, イーヴォ・カルネイロ・デ
 ……………56, 79, 86-88

た行

ダールグレン, エリク・ヴィルヘルム
 ……………106, 373, 382, 408
 高桑駒吉……………139
 高瀬恭子……………20
 高田英樹……………106, 108
 高良倉吉……………19, 182, 431, 432
 田中俊夫……………128
 張増信……………263
 張天澤……………263
 鶴見良行……………184
 テイシェイラ・ダ・モタ, アヴェリノ
 ……………16, 30, 106, 143, 145
 ティベッツ, ジェラルド・ランダル
 ……………143
 デスセ, ジャン……………123, 297-299
 トマス, ルイス・フィリペ
 ……………100, 101, 184
 冨村真演……………208

豊見山和行……………20

な行

中砂明徳……………402

中村拓……………78, 106, 373, 382, 383

ネベンザール, ケネス……………30

は行

パク, ヒュンヘ……………30

橋本雄……………354, 358, 360

濱下武志……………182, 197, 294

原田禹雄……………9

万明……………263

ピアソン, リチャード……………21, 439, 440

東恩納寛惇……………19, 128, 181

弘末雅士……………184

フェラン, ガブリエル
……………122, 124, 140, 143, 145

藤田豊八……………126-128, 160

フジタニ, ジェームズ……………263

藤田元春……………124, 141, 161

藤原利一郎……………184

ブタック, ローデリッヒ
……………222, 283, 418-420, 425

プロトン, ジェリー……………30

ブロンソン, ベネット……………432

ホイットニー, リチャード・ステファン
……………139

ポーチェ, M・G……………108

ホール, ケネス……………434, 435

ボクサー, チャールズ・ラルフ……………402

ま行

前嶋信次……………140, 142, 145, 160-162

真栄平房昭……………20, 182

松田貢……………182

松本賢一……………79, 106, 373, 82

の場節子……………106-109, 124, 162, 163

マルケス, アルフレド・ピニエイロ
……………106

マンガン, ピエール・イヴ……………82, 86

村井章介……………6, 21, 182, 183, 219, 354, 358,
359, 373, 380, 382, 433

メイリンク・ルーロフス, M. A. P.
……………184, 188

や行

家島彦一……………169

矢野仁一……………263

山崎岳……………184

吉岡康暢……………21, 208

吉成直樹……………21

ら行

ライン, ヨハネス・ユストゥス
……………139, 140

リード, アンソニー……………308, 431

ロウレイロ, ルイ・マヌエル
……………82, 83, 86, 263, 275

わ行

和田久徳……………20, 184

【Ⅲ 地名】

あ

アカプルコ … 399, 400, 409, 411, 412, 421
アデン … 60, 230
奄美大島 … 382, 383, 431
奄美諸島 … 173-175
アユタヤ … 182, 186, 189, 214, 215, 219,
242, 243, 258, 262, 278, 282, 284, 285,
291, 309, 327, 331, 335, 347-351, 353,
354, 357, 360, 366, 369, 398, 399, 407,
416, 417, 420-422, 425, 433, 438
アラゴン … 39, 46
アラビア海
… 18, 31, 58, 60, 76, 78, 152, 185
アル・ゲール(高麗)
… 164, 167, 171, 173, 176
アル・ゲール(琉球) … 18, 25, 52, 122,
126, 130, 132, 133, 137-149, 157-181,
261, 277, 415
アルメニオ島 … 404-410, 412, 418
アンシアン … 323-325
アンボン島 … 346, 393

い

硫黄島島 … 382-384
生野銀山 … 404, 405
イタリア … 46, 55
伊平屋島 … 383, 384
石見銀山 … 283, 394, 404, 405, 430
インド … 13, 15, 32-34, 36, 38, 39, 42, 43,
45, 48, 50, 59-62, 70, 72, 76, 83, 95, 102,
144, 153-155, 185, 186, 188, 204, 225,
228, 234, 236, 237, 241-243, 248, 265,
271, 272, 294, 296, 317, 319, 326, 364,
392
インドシナ半島
… 44, 91, 99, 285, 307, 314, 316, 332-325
インドネシア諸島 … 72, 96, 98, 100, 192
インド洋 … 11, 29, 32, 35-37, 42, 46, 57,
60, 84, 97, 98, 102, 143-147, 158, 185,

186, 188, 193, 195, 203, 221, 229, 295,
317, 322, 359, 404, 410, 414, 441

う・え

ヴァンドン … 214, 215, 331
ヴィジャヤ … 211, 214, 215, 327
ヴェネツィア … 40, 46, 107, 115, 117, 302, 318, 320, 384
ヴェルデ岬諸島 … 46, 293
浦添 … 174, 292, 439
エスパニョーラ島 … 115-117

お

黄金半島(マレー半島) … 32, 33, 42, 43,
45, 48-50, 54, 95, 103, 319
大隅半島 … 352, 358, 379
沖縄本島 … 53, 68, 93, 94, 101, 253, 374,
382, 383, 391, 396
オフィール … 297, 311, 313, 404
オマーン … 143, 178
オランダ … 17, 410
温州 … 126-128, 174

か

海澄 … 399, 400, 411, 412
海南島 … 80, 82, 87, 201, 214, 219, 285,
324, 328, 331, 364
カウリ(高麗) … 109, 170, 171, 173, 179
河口鎮 … 279, 403
火山島(硫黄島島) … 380-383
カステイーリヤ … 46, 235, 243
カタイ(北中国)[カタイオ etc.] … 39, 43-
45, 52, 53, 103, 104, 110, 113, 115, 117,
166, 172, 311, 313, 319, 388, 414
カッティガラ … 32, 33, 42
カナノール … 13, 152, 241, 243, 265, 299
カリカット[コーリコード] … 46, 48, 58,
76, 144, 228, 230, 238, 241, 299
広東 … 13, 14, 25, 61-63, 80, 82, 89, 90,
177, 193, 201, 214, 241-244, 248, 249,
251, 257, 258, 262, 263, 266-276, 285,
288, 291, 308, 316, 317, 319-321, 325,
335, 336, 338, 365, 368, 373, 395-397,

406, 418, 419, 421, 423-425
 カンバヤ……………229, 230, 236, 285, 287
 カンパレク(大都)[カンパーリク]
 ………………39, 40, 104, 144, 176
 カンボジア……………193, 214, 364, 402

き

喜望峰……………30, 42, 46, 58, 70, 73, 78
 九州……………21, 128, 129, 168, 173-175, 179,
 280, 283, 369, 372, 379, 390, 395, 396,
 401, 404, 410-412, 415, 425, 430
 キューフ(琉球?)……………169, 170
 巨大半島……42, 43, 45, 48-51, 54, 95, 103,
 113, 115, 117, 118, 319, 414
 キリティリア[キリティリル]
 ………………48, 50, 51
 キンサイ(杭州)[カンサイ]
 ………………39, 40, 44, 104, 108, 111-113, 115

く

グジャラート……144, 185, 188, 189, 234,
 236, 238, 287, 328
 口永良部島……………382-384
 久米島……………383, 384
 久米村……7, 200, 201, 218, 219, 222, 223,
 256, 285, 309, 332, 333, 420, 436, 437
 グレシク……………177, 192

け

慶元……………109, 128, 171, 174, 175
 景德鎮……………204, 427, 429
 月港……271, 276-283, 291, 309, 330, 333,
 394, 395, 399, 416, 421, 422, 430
 慶良間諸島……………383, 384

こ

ゴア……………59, 75, 152, 152, 165, 265, 346,
 347, 364, 368, 390, 393, 397
 紅河……………86, 215, 331
 紅海
 ……57, 60, 66, 70, 72, 74-76, 83, 161, 237
 広州……………23, 34, 35, 37, 50, 61-63, 73, 76,
 82, 89, 90-92, 95, 96, 168, 193, 204, 243,

263, 267-269, 274-277, 288-291, 293,
 301, 378, 416, 438
 杭州……………39, 40, 44, 104
 交趾……………34, 209, 210, 213, 331, 402
 コーチシナ
 ………………48, 51, 86, 229, 265, 307, 364
 江南……………218, 219
 高麗……109, 140, 141, 161, 163-180, 273,
 386, 389, 398, 402, 411, 415, 417, 420,
 439
 コーレ(高麗)……171, 173, 176, 179, 415
 コチン[コチ]……46, 58-62, 70, 76, 86,
 151, 152, 228, 243, 265, 306
 小根占……………352, 353, 360, 361
 コロマンデル(海岸)……188, 189, 204, 231
 コンドル島(プロ・コンドル)
 ………………80, 82, 265, 323, 324, 328, 331

さ

済州島……………128, 205, 218
 ザイトン(泉州)[サイトンetc.]……39-41,
 44, 104, 108, 110, 111, 113, 116, 144,
 166, 176
 堺……………11, 19, 204, 365, 427, 429, 430
 先島諸島……128-132, 148, 174, 175, 216,
 232, 383, 384, 415, 432, 438
 薩摩(半島)……………141, 161, 379
 サンタ・マリア島(宝島?)……380-383
 三浦……………220, 256

し

ジェノヴァ……………51, 106, 305, 306
 シナイ(中国)……………29, 32, 33, 414
 ジパング(日本)[チパングetc.]……25, 41,
 43, 44, 50, 52, 53, 103-119, 126, 132,
 248, 310, 311, 313, 317-319, 322, 325,
 326, 335, 369, 375, 377, 380, 404, 415
 ジャボンエス(日本)……………354, 359, 375
 シャム……………59, 63, 72, 73, 91, 182, 186,
 189-202, 214, 217, 229, 235, 237, 242,
 247, 253, 265, 266, 268, 269, 284, 307,
 323, 324, 326, 328, 329, 348-351, 354,
 365, 400

シヤム湾……48, 96, 98, 119, 189, 285, 300
 ジャワ(島)……68, 70, 72-75, 77, 78, 91,
 96, 98, 102, 110, 145-158, 177, 180, 182,
 192, 200, 214, 217, 229, 231, 237, 239,
 246, 253, 285, 288, 400, 415, 420
 ジャワ海……18, 57, 60, 84, 91, 102, 144,
 147, 153, 185, 186, 188, 193, 195, 221,
 229, 240, 261, 263, 285, 288, 322, 335,
 371, 441
 ジャンボン(日本)……245, 248
 珠江……61, 89-91, 267
 首里……7, 11, 174, 214, 216, 222, 231, 278,
 281, 408, 428-432, 436, 437, 439, 440
 漳州……193, 201, 217, 271, 276, 279, 292,
 304, 320
 漳州湾……193, 217, 223, 271, 275-281,
 288-291, 309, 336, 365, 367-369, 371,
 378, 379, 395, 399, 429
 小スンダ列島……67, 68, 192, 346
 小琉球(台湾)……93, 94, 124, 140, 148,
 232, 280, 308, 374-376, 386, 402
 新羅……167-170, 179
 シンガプ[シンガポール]……51, 80, 82,
 128, 203, 209, 210, 234, 239, 240, 245
 浸水諸島(パラセル諸島)
 ……87, 88, 101, 300, 316

す

スィーラー(新羅)
 ……34-37, 163, 168, 176, 177, 179
 スィーン(中国)……34, 36, 37
 スーラー(諸島)……288, 332
 スーラー海……285, 288, 307, 371, 410
 スキュティア[シティア]……387, 388
 スプラトリー(南沙)諸島……88, 316
 スペイン……3, 11-13, 16, 17, 22-26, 42,
 97, 116, 292-347, 352, 360-363, 369,
 371, 375-378, 399-401, 404, 409, 410,
 412, 413, 417, 441
 スマトラ(島)……36, 72, 74, 77, 96, 98,
 145, 185, 192, 193, 235, 239, 340, 251,
 265, 284, 300, 317, 338, 400
 スラバヤ……177, 192

スンダ(列島)
 ……65, 73, 74, 76, 91, 202, 257, 269, 338

せ

西洋(航路)……280, 285, 286, 291, 309,
 316, 325, 328, 333, 345, 401, 411, 412,
 425, 430, 438
 セイロン(島)……32, 36, 70, 73, 76-78, 145, 146, 172, 295
 浙江……128, 129, 171, 173, 175, 203, 367,
 369, 402
 セビーリヤ……89, 296, 297, 299-302, 305,
 311, 314, 322, 347, 376, 410
 セブ島
 ……302, 303, 322, 323, 325, 345, 399, 400
 セレベス島……162, 193, 300
 泉州……34, 39-41, 107, 108, 110, 127, 128,
 130-132, 144, 162, 166, 170-180, 193,
 201, 203, 204, 217, 219, 223, 271, 276,
 280, 415

そ

双嶼……336, 365, 367, 371

た

大カウリ(トラボバーナ島)
 ……172, 176, 179
 大西洋……97, 112, 293, 295, 310, 376
 大都……39, 40, 144, 162, 176
 太平洋……11, 30, 294, 297-302, 305, 309-
 312, 337, 385, 400, 405, 406, 409, 410,
 412
 大琉球(沖縄本島)……93, 94, 148, 280,
 374-376, 386, 391, 402
 台湾……20, 68, 88, 93-95, 100, 101, 124,
 140, 148, 162, 164, 168, 169, 175, 219,
 232, 308, 324, 374, 379, 382-384, 405,
 415
 台湾海峡……285, 325, 326
 宝島……383, 384
 種子島……131, 220, 336, 339, 353-362,
 364, 371, 372, 384, 390, 391, 410, 417,
 421, 242

タブロバーナ島……………32, 172
 タマン(屯門)……61-63, 80, 82, 83, 90-92,
 157, 243, 257, 263-270, 273, 274, 276,
 290, 291, 293, 374, 378, 397, 416
 タルシス……………297, 311, 313
 タルタリア……………165, 273, 313

ち

チャンパ……………36, 42, 44, 48, 80, 82, 113,
 185, 193, 209-215, 217, 219, 265, 278,
 319-331, 333, 364
 中国……4, 6, 8, 10, 18, 20, 21, 23, 25, 29-
 31, 33-35, 37, 39, 40, 44, 50, 52, 55, 57,
 61, 62, 66, 68, 74, 76, 77, 79, 80, 83, 86-
 94, 99, 102, 104, 105, 118-124, 130-132,
 140, 145, 148, 149, 152, 154, 161-173,
 185, 188, 193, 213, 228, 229, 237, 240-
 242, 244-252, 258, 261-283, 301, 303,
 304, 310, 311, 314-316, 318-333, 335,
 338, 339, 343-355, 359, 365-369, 373,
 375, 385-389, 392, 394-396, 399-402,
 406, 407, 410, 411, 414-417, 419, 423,
 429, 433, 441
 中国諸島……………100, 101, 119, 300, 415
 潮州……………292, 367
 朝鮮……4, 6, 9-11, 20, 21, 23, 52, 92, 119,
 163-165, 168, 169, 173, 175, 177, 179,
 197, 205, 219-221, 223, 224, 227, 249,
 251, 253, 257, 258, 279, 282, 283, 287,
 330, 380, 385, 386, 388, 389, 394, 399,
 402, 408, 415, 416, 421, 423, 424, 430,
 438, 441
 チンジリナ島(琉球)
 ………………51-54, 78, 117, 118, 414
 チンチェオ(漳州)[チンチェウetc.]
 ………………193, 269, 276, 352, 374, 405, 409
 チンの海……………52, 113, 115, 131

つ

対馬……220, 224, 249, 253, 256, 257, 279,
 421, 423

て

ティーナイ……………214, 215, 327, 329, 330
 デイウ……………238, 317
 ティドーレ島……302, 303, 305, 311, 312,
 337, 343-348, 352
 テイモール島
 ………………146, 147, 192, 229, 237, 303
 テルナテ島
 ………………284, 311, 342-347, 351-353, 392

と

ドイツ……………18, 154, 166, 167
 トゥバン……………177, 192
 東方三博士島(先島諸島)……………380-383
 東洋(航路)……………281, 285, 286, 291, 292,
 309, 316, 332, 333, 345, 399, 401, 412,
 425, 430, 438
 トカラ列島……………382-384
 徳之島……………173, 382, 383
 土佐……………220, 328
 土佐湾……………379, 430
 トンキン湾……68, 79, 82, 86, 87, 95, 96,
 98, 99, 119, 300, 325

な

長崎……396, 401, 411, 421, 425, 426, 429
 今帰仁……………129, 174, 430, 439
 那覇……7, 11, 20, 174, 175, 177, 203, 208,
 216, 222, 250, 278-283, 291, 309, 333,
 366, 394, 395, 401, 404, 408, 409, 412,
 416, 417, 420-422, 424, 428-433, 436,
 437, 439, 440
 南西諸島……………16, 21, 128, 129, 173-175,
 220, 280, 353, 372, 378-385, 390, 396,
 410, 415, 417, 420, 432, 439, 440

に

西インド諸島……………44, 115-117
 日本……4, 6, 10, 11, 16, 18-21, 24, 52, 78,
 94, 100-102, 104-110, 121, 123, 124,
 131, 139, 155, 163, 165, 195, 204, 218-
 221, 223, 227, 229, 232, 239, 245, 247-

249, 251, 256, 257, 273, 277-287, 291,
303, 322, 326, 330, 339, 347, 352-365,
371-385, 388-412, 415, 417, 422-430,
438
ニューギニア……………295, 337, 338, 344
寧波……………109, 128, 129, 173, 174, 336, 352

ぬ

ヌエバ・エスパニーヤ
……………336, 343-355, 393

は

博多……………11, 19, 109, 128, 129, 173, 174,
204, 224, 253, 256, 257, 279, 421, 423,
427-430
パサイ……………62, 185, 192, 202, 205, 207, 236,
265, 266, 277
パタニ……………63, 202, 207, 257, 258, 262,
264-266, 272, 277-279, 281, 282, 284-
288, 291, 307, 331, 335, 352, 368, 369,
398, 400, 402, 416, 421, 424, 438
バタム島……………209, 210, 240
バトゥカ島(琉球)
……………100, 101, 103, 120, 300
ハドラマウト……………178, 180
パハン……………154, 213, 229, 235, 307
婆羅公(先島諸島)
……………126-132, 148, 232, 415
パラセル(西沙)諸島……………88, 89, 101, 103,
120, 201, 300, 314, 318, 324, 325, 327,
331
バラレン[バレーン]……………323, 331
パラワン島……………88, 101, 108, 285, 303, 307,
316, 323, 325, 332, 345
パリオコ島[パルボコ, ペリオコ]……………25,
92, 103-106, 118-132, 148, 232, 414,
415
バレラ岬……………80, 82, 214, 324, 331
パレンバン……………177, 182, 184, 192, 200,
202, 240, 246, 285, 420
バンダ諸島……………60, 72, 73, 96, 98, 192, 229,
237, 294, 322

ひ

東シナ海……………4, 6, 23, 24, 77-79, 83, 84, 89,
92, 94, 95, 168, 173, 175, 221, 222, 255,
257, 277, 281, 291, 325, 336, 367-369,
371, 373, 396, 398, 410, 414, 421, 422,
424, 433, 441
ビンタン島……………210, 240

ふ

ファリユーク島[フィリユーク, パリユーク]
……………122-126, 130-132, 147-149
フィリピン(諸島)……………17, 23, 26, 88, 89,
100, 101, 106-109, 193, 214, 283, 285,
288-292, 294, 298, 300, 302-310, 313,
314, 316, 318, 322, 325-327, 332, 333,
335, 336, 340-345, 348, 353, 361, 369,
371, 376, 395, 399-404, 406, 412, 417,
418, 421, 422, 424, 438
フィレンツェ……………42, 44, 154, 166
福州……………129, 174, 201, 203, 204, 223, 269,
271, 278-282, 399, 402, 403, 429
福建……………23, 94, 128-132, 168, 171, 173-
180, 193, 201, 203, 208, 214, 217, 219,
222-224, 244-246, 255, 262, 270, 271,
275-280, 285, 288-292, 307-309, 330,
336, 345, 376, 369, 382, 384, 395-397,
399, 401-403, 412, 415, 418-421, 423-
425, 428, 436
フムヌ島……………302, 305
ブラジル……………46, 55, 70, 73, 77, 84
ブラバス島(口永良部島)……………380-383
ブラバント……………155, 166, 167
フランス……………18, 39, 65, 97, 310, 321
フランドル
……………154, 166, 167, 313, 317, 319, 332
ブルネイ……………89, 214, 284-292, 303, 307-
309, 313, 315, 316, 322, 324, 332, 333,
352, 353, 369, 400, 417, 421, 424, 438
フレモザ島(台湾)……………380-383
豊後……………364, 390

へ

北京……………62, 90, 243, 274, 402, 403
 ベゲー ……59, 185, 186, 189, 229, 231, 235,
 253, 364
 ベトナム ……11, 18, 86, 193, 204, 209-215,
 277, 324-331, 333, 416, 417, 423, 242,
 439
 ペルシア湾……………31, 60, 70, 94, 177, 180
 ベンガル
 ……189, 204-206, 229, 231, 253, 264, 265
 ベンガル湾……………31, 32, 42, 48, 54, 68, 73,
 76-78, 84, 95, 102, 185, 187, 189, 195,
 261, 310, 385

ほ

澎湖諸島……………94, 101, 124, 175
 ボルネオ(島) ……89, 96, 100, 101, 162,
 193, 229, 237, 284-290, 294, 300, 314,
 315, 323-326, 331, 345, 417
 ホルムズ……………13, 60, 145, 146, 177

ま

マカオ ……396, 401, 405, 411, 421, 425, 426
 マクタン島……………302, 322, 323
 マグヌス・シヌス(大湾)[シヌス・マグヌ
 ス] ……32, 33, 42, 43, 45, 48, 50, 54, 95,
 97, 98, 120, 121, 124, 126, 131
 マニラ ……56, 308, 399-402, 404, 405, 409,
 411, 412, 417, 421
 マラッカ[ムラカ] ……13, 15, 18, 19, 22,
 23, 25, 48, 51-55, 57, 59-62, 66, 72, 73,
 76, 77, 79, 80, 82, 83, 88, 90, 91, 93, 94,
 101, 105, 119, 123, 125, 131, 137-139,
 141, 143, 146-159, 161-166, 178, 180-
 258, 261-266, 272-274, 277, 279, 281,
 284-290, 294, 296, 299, 309-311, 313,
 327, 335, 346-348, 353, 364, 366, 368,
 369, 371, 384, 386, 390, 398, 400, 402,
 406, 407, 414-416, 418, 420, 421, 423,
 424, 432, 438, 440, 441
 マラッカ海峡……………34, 54, 82, 84, 98, 178,
 184, 189, 203, 240, 285, 316

マラバル海岸

…13, 46, 58, 59, 86, 178, 180, 188, 261
 マレー半島……………32, 33, 50, 82, 95, 96, 98,
 185, 189, 193, 201, 203, 213, 235, 257,
 265, 307, 319, 322, 328, 329
 マンジ(南中国) ……42, 43, 45, 52, 103,
 104, 112, 113, 115-117, 319

み

南九州 ……352, 353, 379, 382, 384, 437, 438
 南シナ海……………4, 6, 23, 25, 57, 61, 77-79,
 82-84, 87, 91, 94, 95, 102, 107, 109, 113,
 153, 185, 186, 189, 193, 201, 213, 214,
 221, 222, 229, 240, 261-263, 271, 280,
 283-291, 314, 316, 321, 325, 326, 328,
 332, 335, 336, 338, 369, 371, 373, 375,
 378, 385, 398, 410, 414, 417, 418, 420-
 424, 428, 433, 434, 440, 441
 ミナンカバウ……………192, 229, 235
 密牙古(宮古島)……………127, 128
 ミヤコ(都)[メアコ] ……359, 374-376, 379
 宮古島……………128, 130, 174, 216
 ミンダナオ島
 ……288, 303, 322, 324, 342-347

め

明州……………39, 171, 173, 179
 メキシコ ……115, 312, 321, 336, 337, 340-
 347, 361, 395, 400, 404-407, 409, 410

も

モカロール諸島(バラセル諸島)
 ……100, 120, 300
 モザンビーク……………75, 306
 モルッカ(諸島)[マルク] ……13, 17, 57,
 59, 60, 66, 68, 72, 73, 77, 79, 84, 91, 96,
 98, 100, 119, 146, 147, 162, 192, 236,
 237, 239, 262, 284, 285, 288, 290, 292-
 314, 322, 325-327, 332, 335-347, 351,
 353, 361, 363, 376, 392, 393, 399, 400,
 417
 モンゴル
 ……29, 39, 108, 165, 170-172, 273, 411

や・よ

八重山(諸島)216, 382
 山川379, 384
 揚州34, 39, 168

り

リキーウー(琉球)[リキュー]18, 140,
 145, 148, 149, 151, 157-159, 178, 180,
 415
 リキオ(琉球)237, 397
 リキオス(琉球) ...323, 325, 327, 364, 365
 リスボン13, 14, 16, 40, 44, 46, 47, 55,
 64, 76, 96, 113, 115, 125, 126, 154, 156,
 237, 243, 244, 265, 305, 306, 346, 354,
 362, 378, 390, 393
 リャンボー(双嶼)354, 374, 379, 391
 龍泉128, 203, 204, 427

る

ルソン(島)88, 91, 124, 219, 229, 239,
 248, 249, 262, 285, 287, 303, 307, 313,
 316, 320, 332, 400

れ

レイテ島307, 342-344
 レキオ(琉球)[レケオ etc.]88, 139,
 156, 158-160, 206, 232, 235, 239, 248,
 284, 359
 レキオス(琉球)[レケオス]24, 68, 73,
 77, 79, 92, 93, 95, 96, 101, 103, 151, 154,
 158-160, 229, 239, 261, 270, 272, 273,
 277, 278, 288, 294, 297-308, 313, 324-
 329, 313, 324-345, 347, 349, 352-354,
 357-363, 369, 370, 373-375, 380, 396,
 400, 402, 404, 405, 410, 411, 414, 415,
 418, 441
 レケオレー(パラワン島?)
88, 89, 101, 316, 414

ろ

ロシア18, 165

わ

ワークワーク(倭国)34-37, 113, 124
 渡地村281, 282, 440, 429

【Ⅳ 事項】

あ

アウグスチノ会士……399, 401, 405, 406
 アグアルデンテ……246, 247
 按司……3, 174, 216, 304, 436, 439
 アメリカ銀……401, 411
 アユタヤ朝……163, 177, 182, 184, 185,
 189, 200, 202, 206, 207, 219, 253, 258,
 403, 420, 430, 432
 アラビア語航海書……18, 25, 122, 124,
 130-132, 134, 138, 143, 149, 157, 159,
 163, 171, 179, 415
 アラビア語地理書……168, 170
 アラブ系海商……18, 48, 52, 54, 102, 130,
 132, 164, 171, 176-178, 261, 415, 416
 アル・ゲーリー鉄
 ……145, 147-149, 178, 277
 アルメニア商人……406, 407

い

イエズス会士……110, 165, 364, 390, 397
 硫黄
 ……192, 201, 202, 216, 377, 392, 403, 430
 イスラーム地理学
 ……30, 34, 35, 37, 40, 125, 179, 414
 イタリア人乗員(マゼラン艦隊)
 ……17, 417
 インディア館……14, 64, 237, 244
 インディア航路……45, 400
 インディアス会議
 ……297, 299, 313, 322, 376
 インディア総督……12, 13, 58, 89, 61, 75,
 76, 83, 230, 238, 265, 296, 305, 368, 372
 インディア領……12, 58, 363, 368, 372
 インド産綿布(織物)
 ……72, 192, 195, 204-206

う

馬……201, 316, 403

お

オイクメネー[エクメネー]
 ……31, 44, 125, 168, 169
 黄金……34, 94, 107, 108, 113, 115, 116,
 123, 131, 132, 139, 155, 169, 172, 189,
 227, 229, 231, 232, 235, 237, 239, 245,
 246, 248, 249, 252, 257, 268-270, 272,
 273, 277-279, 282, 305, 328-330, 352,
 355, 380, 392, 394, 395, 405, 416, 430
 黄金島……404, 405
 王相……222, 420, 436
 大内氏……220, 252
 オスマン朝……73, 117
 御物城……203, 218
 御物城御鎖側……222, 208

か

海禁……52, 90, 201, 203, 215, 217, 223,
 254, 267, 268, 280, 291, 309, 333, 365,
 399, 401, 411, 416, 420, 421, 425-428,
 436
 華人海商(商人)……52, 59, 61, 90, 91, 163,
 171, 184, 193, 203, 217, 219-221, 234,
 251, 254, 257, 263, 265, 280, 283, 285,
 287, 336, 365, 369, 395, 399, 411, 412,
 419, 424, 428, 432, 436
 華人ジャンク……61, 83, 193, 242, 263,
 333, 336, 353, 362, 363, 369, 372, 391,
 407, 417, 421
 火長……200, 266
 家譜……7, 140, 197, 251, 277, 333
 カムイ焼……173
 唐物……220, 283
 関税……90, 186, 187, 204, 206, 207, 263,
 267, 274, 275
 管船直庫……200, 207, 266

き

キウイ(客商)……187, 192
 生糸……139, 193, 220, 231, 232, 241, 247,
 251, 416, 430
 気候帯(イクリーム)……34, 37, 169, 170

聞得大君……………246, 331, 398, 437
徽州海商……………283, 369, 371
ギニア・インディア庫……………64, 96
絹……48, 51, 139, 188, 193, 220, 231, 232,
241, 246, 248, 251, 264, 276, 277, 282,
311, 416
ギリシア・ローマ地理学…31, 34, 35, 37
銀……………100, 172, 235, 237, 252, 270, 283,
349, 352, 355, 392-396, 404, 407, 417
金銀
……39, 100, 101, 241, 283, 287, 300, 311
金銀島……………26, 409, 410, 412
銀の島々……………390, 393, 394, 404, 410

く

グジャラート海商……………188, 189
グスク
……3, 11, 173, 174, 214, 278, 281, 439
クリス……………148, 231
クリン人海商
……59, 188, 189, 227, 234, 236, 257
クローブ……………48, 70, 100, 150, 192, 227,
229, 237, 253, 303, 338

け

元寇……………107, 145
元朝……………29, 39, 55, 111, 170, 174
遣明船……………354, 358, 424, 428, 430

こ

交易の時代
……3, 413, 431, 432, 434, 440, 441
港市国家……………185, 431-441
香辛料……………72, 113
高麗海商……………171, 179
ゴーレス(高麗人)
……164-168, 180, 273, 380
ゴーレス(琉球人)……13, 15, 18, 19, 22,
25, 70, 72-74, 84, 85, 93, 122, 123, 133-
144, 149-181, 224-236, 244, 261, 269,
270, 273, 305, 307, 380, 411, 415, 417,
418
黒檀……………113, 253

互市……………267, 269, 283, 291, 418, 421
胡椒……58, 61, 62, 100, 113, 115, 150, 177,
192, 193, 196, 200, 201, 216, 220, 224,
227, 236, 248, 252, 256-258, 266, 272,
277, 279, 281, 291, 336, 338, 368, 369,
371, 411, 416, 418, 424
小麦……………93, 94, 100, 101, 139, 150, 227,
231, 232, 241, 244, 246, 247, 251-253,
300, 391, 414, 416, 433
ゴリ(琉球人／高麗人)
……154, 155, 157, 166-168, 180, 307
コンテナ陶器……………19, 430

さ

堺商人……………204, 219-221, 249, 256, 282,
283, 330, 399, 421, 423, 430, 438
砂金……………124, 150, 231, 232, 252
冊封……………8, 21, 23, 174, 279, 441
冊封使……………8, 23, 211, 233, 279
サラゴサ条約
……312, 313, 335, 337, 340, 343, 345
更紗……………188, 189
山南(王国)……………174, 175, 177, 420
山北(王国)……………174, 177, 420
三浦の乱……………257, 416, 421

し

磁器……………48, 52, 128, 131, 193, 196, 204,
220, 231, 232, 241, 246-248, 251, 277,
281, 282, 324, 413, 428, 439, 440
執照……195, 196, 200, 234, 250, 251, 266,
330, 366, 403
咨文……………195-204, 207, 251
島津氏……………3, 8, 10, 220, 422, 438
シャーバンタル
……185, 186, 188, 213, 215, 236
麝香……48, 51, 52, 150, 227, 246, 247, 287,
324, 429
ジャワ人海商……………59, 72
ジャワ人航海士……24, 59, 68, 70, 72, 73,
75, 84, 91, 92, 94, 95, 102, 151, 158, 414
ジャワ人地図……73-75, 77, 78, 84, 85, 96,
98-103, 120-122, 125, 126, 132, 151,

373, 414
 ジャン……………80, 82
 ジャンク……………192, 193, 204
 柔遠駅……………279, 403
 集散港……………12, 221, 229, 237, 288, 418
 商館……………12, 13, 46, 58-61, 225, 234, 241, 299, 368
 商館員……………13, 241-243, 265
 商務官……………12, 13, 17, 26, 74, 229, 237, 336, 346, 361
 沈香……………48, 52, 193, 214, 215, 253, 277, 278, 284, 330
 進貢船……………8, 201-203, 208, 220, 253, 268, 269, 279, 423
 進貢貿易……………9, 20, 23, 221-223, 256, 268, 278-282, 291, 292, 330, 403, 411, 412, 422, 423, 428-430, 434
 辰砂……………285, 287
 新ブレマイオス図
 ……………41, 45, 48, 54, 103, 111, 113, 414

す

水銀……………285, 287
 錫……………201
 スラト人……………184, 185, 210, 234

せ

青花……………203, 204, 214, 248, 281, 427, 429
 正使……………200, 207, 208, 234-236, 266
 青磁……………52, 128, 203, 206, 217, 223, 248, 281, 416, 427-429, 439, 440
 1570年システム……………411, 425
 扇子……………244-247

そ

蘇木……………124, 177, 193, 196, 201, 206, 216, 220, 252, 253, 256, 257, 281, 282, 291, 403, 404, 411, 423

た

第一尚氏王朝……………177, 197, 208, 215, 221, 222, 255, 416, 420, 436, 439
 対蹠分界(線)……………295-297, 300, 301, 310,

313, 314, 316, 332, 335, 417
 タイ陶磁(陶器)……………19, 203, 427, 428, 430
 第二尚氏王朝……………197, 208, 215, 216, 221-223, 255, 416, 421, 434, 436, 438, 439
 大洋路……………173, 174, 179

ち

チャム人……………63, 107, 108, 213, 215
 中国陶磁(磁器)……………203, 215, 217, 281, 424, 426-429, 439, 440
 中山(王国)……………174, 175, 177, 420
 朝貢……………8, 20, 21, 23, 116, 155, 184, 189, 196, 201, 208, 219, 244, 255, 292, 304, 332, 403, 441
 朝貢・海禁体制……………3, 4, 418, 419, 426, 431
 朝貢国……………245, 249, 402
 朝貢使節……………90, 201, 213, 402, 403
 朝貢船……………263, 267, 272, 274, 275
 朝貢貿易……………61, 90, 175, 176, 183, 184, 193, 203, 204, 215-217, 220, 221, 252, 283, 285, 291, 394, 411, 412, 416, 418-426, 433, 436, 439, 440
 長史……………222, 367
 朝鮮王朝……………9, 175, 220, 287, 420
 チンチェオス(漳州人)……………193, 201, 405

つ・て

通事……………196, 200, 207, 209, 234, 235, 255, 266, 267, 367
 通商院……………311, 314, 316, 322, 376, 377
 鉄……………148, 277, 278, 282, 323, 352, 392, 415

と

銅……………93, 94, 101, 136, 150, 154, 155, 189, 227, 229, 231, 232, 245-249, 252, 257, 277, 278, 281-287, 392, 395, 414, 416, 430
 刀剣……………145, 150, 162, 163, 227, 244, 246, 277, 278, 352, 415
 陶磁(器)……………11, 188, 203, 264, 278, 281, 426-428, 439, 440
 トーレ・ド・トンボ文書館
 ……………12, 156, 306

ドミニコ会士……………14, 91, 387
トリニダード号……………302, 303, 305
トルデシリャス条約
……………46, 47, 77, 293-295, 300, 314
奴隷……………192, 244-246, 254
緞子……………150, 227, 246, 247, 277, 282

な

ナコダ(船長)……………186, 187, 213
ナツメグ
……………72, 73, 100, 113, 115, 192, 229, 237
南海路……………220, 173, 174, 179, 415, 420, 430
南島路……………173, 174, 179, 428
南蛮人……………218, 219, 309

に

日本銀……………282, 283, 291, 292, 329, 369,
371, 394, 395, 399, 401, 421, 430
日本刀……………145, 148, 162, 163, 227, 232, 430

は

博多商人……………204, 219-221, 249, 252, 256,
282, 283, 330, 399, 421, 430, 438
白磁……………129, 174, 248, 427, 439
バダホス・エルヴァス会議
……………310, 314, 378
バルヒー学派……………35, 36

ひ

ヒキ……………216, 255, 437
ビクトリア号……………302, 303, 305, 313
ビザンツ帝国……………31, 40, 42
火縄銃……………354, 356, 390, 391, 395
白檀……………48, 100, 229, 237
標準図(パドラン)
……………15, 51, 60, 64, 96, 100-102
閩南海商……………193, 217, 292

ふ

副使……………200, 234, 266
福建海商……………4, 128, 176, 193, 219, 221-
223, 256, 278, 280, 281, 283, 288, 291,
303, 309, 333, 369, 371, 416, 418, 423,

430, 436, 438, 440
福建磁器……………129, 130, 132
福建市舶司……………9, 204, 223, 280
附搭貨物
……………11, 201, 216, 253, 281, 403, 411
プトレマイオス地理学
……………15, 31, 34, 37, 39-41, 53, 54, 414
ブンダハラ……………185, 229, 234, 236

へ

米穀
……………72, 189, 192, 206, 244, 252, 253, 264
平面球形図(プラニスフェレ)……………15, 41
ベトナム陶磁(磁器)
……………19, 203, 214, 215, 427, 428
ペリオイコイ……………125, 126
ベンガル産綿布(織物)
……………189, 204-206, 246, 247, 253

ほ

ポルトガル私貿易商人……………262, 281, 290,
333, 336, 362, 363, 365, 368, 369, 371,
372, 379, 395
ポルトラーノ海図……………38, 45, 47, 53

ま

マジヤパヒト朝
……………163, 177, 184, 185, 192, 202, 219
マッパ・ムンデイ……………38, 40, 41, 54
マムルーク朝……………60, 238
マラッカ商館……………150, 155
マラッカ長官
……………61, 234, 263, 265, 271, 336, 372

み

三重グスク……………408, 409
密貿易……………5, 8, 23, 204, 217, 221-223, 251,
254, 256, 262, 271, 275, 276, 278-283,
288, 291, 292, 309, 330, 333, 336, 365,
367, 369, 371, 394, 411, 412, 418-430,
436, 438, 440
明礬……………154, 229, 231, 232, 392
明代空白期(Ming Gap)……………203, 427

明朝……3, 6, 8, 11, 19-21, 23, 30, 55, 62,
90, 174, 177, 183, 184, 193, 196, 197,
201-203, 208, 215, 217, 220, 223, 238,
243, 245, 249, 252-254, 256, 262, 263,
265, 269, 274, 285, 291, 304, 309, 332,
367, 399, 401-403, 411, 413, 416, 418-
420, 422, 424, 426-428, 434, 436, 438,
441

む

ムスリム海商……35, 58-60, 101, 102, 130,
146, 149, 168, 171, 173, 176, 178-180,
188, 192, 215, 219, 234, 238, 242, 257,
258, 266, 287
室町幕府……10, 220, 252, 420, 421, 423

め

メース……………72, 73, 229, 237
メキシコ副王……17, 338-340, 347, 363,
399, 405, 406, 409
綿布……………188, 189, 192, 193, 249, 264

も

モルッカ長官
……284, 337, 338, 342, 343, 361, 363

や・よ

屋良座森グスク……………408, 409
要塞……12, 58-60, 62, 76, 225, 228, 234,
236, 274, 340, 343, 368

ら

落濤……………161, 162
ラクサマナ
…185, 195, 204, 209-213, 234, 240, 416

り

龍腦……………237, 253, 284, 287, 417, 429
両広総督……………263, 264, 267

れ

黎朝……85, 211, 213, 215, 277, 327, 331
レキオス(琉球人)[レケオス]……13, 25,

89, 105, 110, 143, 155-160, 164, 165,
167, 177, 178, 180, 200, 225, 230, 238-
241, 244-248, 256, 261, 265, 268-270,
305, 307, 314-317, 321, 335, 348, 349,
360, 366, 373, 380, 396, 401, 414, 416
レチー(琉球人)[レチetc.]……17, 154,
155, 157, 166, 303, 304, 307, 308, 319-
322, 332, 380, 417

わ

倭寇……21, 145, 174, 175, 280, 308, 356,
419, 421, 426, 428

【V 書名・地図名】

あ行

『アジア史』(パロス)	14, 62, 156, 235-240, 263, 265, 271, 359, 363, 372, 375
イドリースー世界図(1154)	35-37, 39, 54
『インディア伝承集』	15, 156
ヴァリチェリアーナ図(c. 1550) (作者不明ポルトガル世界図)	359, 372-378, 410
ヴァルトゼーミュラー(マルティン)世界図(1507)	44, 45, 49, 50, 52, 117
ヴァルトゼーミュラー(マルティン)世界図(1513)	49, 50, 295
ヴァルトゼーミュラー(マルティン)世界図(1516)	49, 50
ヴェーリヨ(バルトロメウ)アジア図(1561)	388, 389
『海の知識に関する優良なる指針』	122, 148, 178
オメン(ロボ)世界図(1519)	97, 120
オメン(ロボ)世界図(1554)	378-384, 389, 410
オメン(ディオゴ)地図帳(1558)	384, 389
オメン(ディオゴ)地図帳(1561)	385
オメン(ディオゴ)地図帳(1568)	382, 385, 387, 388
『おもろさうし』	8, 218, 330, 331, 333
『温州府志』(万暦)	127

か行

『海東諸国紀』	9, 218
『海洋学精選』	143, 162, 176-178
『海洋学の精密なる知識におけるマフラの支柱』	122, 125, 130, 147-149
カヴェリ(ニコロ)世界図(c. 1505)	50-55, 64, 77, 78, 94, 95, 118, 414
ガスタルディ(ジャコモ)アジア図(1554)	318
カタルーニャ図(1370s) (アブラハム・クレスケス地図帳)	37-39, 53, 54, 110, 172, 179, 414
カボット(セバスティアン)世界図(1544)	316, 317, 376
カルヴォ(ヴァスコ)書簡(c. 1536)	275-279
カンティーノ図(1502) (作者不明ポルトガル世界図)	45-55, 64, 68, 77, 78, 94, 95, 100, 118, 414
グティエレス(サンチョ)世界図(1551)	376-378, 410
『元史』	107, 109, 126
『元和航海記』	214, 328
『航海学の基礎に関する有益情報』	144-147, 171, 178
『航海・旅行記集成』	318
コンタリーニ(ジョバンニ・マッテオ)世界図(1506)	44, 116

さ行

作者不明ディエップ派世界図(c. 1547)	317
------------------------------	-----

作者不明ナンシー地球儀(16世紀中期)	321
シェーネル(ヨハネス)地球儀(1515)	53, 117
『集史』	109, 170, 171
『諸島図誌』	42, 112, 113
『諸道と諸国の書』	34, 113
『使琉球録』(陳侃)	9, 253
『スジャラ・ムラユ』	183, 193, 209, 212, 213
『世界全島総誌』	17, 294, 321-327, 331, 345, 417
『世界の記』	46, 106-108, 110, 111, 113, 118, 171
『世界の極遠を踏破することを望む者の慰みの書』	36, 168
『世界の形態』	34
『世界の舞台』(1570-98)(アブラハム・オルテリウス地図帳)	378, 389, 405
『世界発見記』	337, 339, 353-357, 360, 362, 363, 417

た行

『大アフォンソ・デ・アルブケルケ実録』	15, 120, 123, 125, 126, 131, 132, 138-140, 148, 156, 224, 226-236, 239, 242, 245, 250, 366, 385, 386
『大越史記全書』	211
『籌海図編』	384
『中国誌』	14, 387, 396
『中国とインドの諸情報』	35
『朝鮮王朝実録』	9, 10
『地理学』(プトレマイオス)	31, 33, 34, 40-42, 44, 50, 111
『地理学大全』	295
テイシェイラ(ドミンゴス)世界図(1573)	388, 389
テイシェイラ(ルイス)日本図(1595)	389
デセリエル(ビエール)世界図(1546)	317
『鉄炮記』	353-358, 362, 363, 390, 391
『天地学序説』	44
『ドゥアルテ・バルボザの書』	13, 240-242, 268, 288, 297-299, 365
『島夷誌略』	232
『東方諸国記』	13, 21, 22, 56-58, 65, 66, 68, 76, 77, 90, 94, 95, 100, 105, 110, 138, 142, 155, 164, 165, 183, 200, 225, 242-248, 265, 267, 303, 313, 375, 385, 386, 414
『東洋遍歴記』	15, 327, 328, 333, 363, 390, 394, 417

な行

『七つの気候帯に関する地理書』	170
『南島志』	358
『日本一鑑』	358, 384
『日本教会史』	358

は行

ピーリー・レイス大西洋図(1513)	117
--------------------------	-----

フィヌ(オロンス)世界図(1531)	321
『フィリピン諸島』	294, 340
ブトレマイオス(クラウディオス)世界図(c. 150)	31-35, 40, 42, 53, 94, 97
『武備誌』	82
フラ・マウロ図(c. 1450)(フラ・マウロ世界図)	37, 40, 41, 46, 50, 53, 104, 111, 118, 131, 414
ブランシウス(ペトルス)東南アジア図(1594)	87
『フランシスコ・ロドリゲスの書』	56, 57, 64-68, 74-77, 79, 83, 243
フリシウス(ヘンマ)地球儀(1536)	319, 320
ベハイム(マルティン)地球儀(1492)	43, 45, 48, 104, 113-115, 117, 121, 132
ペンローズ図(c. 1535)(作者不明ポルトガルアジア図)	288, 289, 321, 337, 373
『ポルトガル人によるインディア発見・征服史』	14, 284, 315

ま行

『マヌエル王年代記』	15, 156, 269, 271
マルテルス(ヘンリクス)世界図(c. 1490)	42-45, 48, 113
マルテルス(ヘンリクス)手書き世界図(c. 1490)	113, 117, 121
『マレー海上法』	18, 183, 187
ミラー図(ペドロ・レイネル, ジョルジュ・レイネル地図帳)(1519)	92, 96-103, 105, 119-126, 131, 132, 148, 299-301, 415
『明史』	8, 184
『明実録』	8, 10, 23, 184, 197, 216, 422
ムシス(ユリウス・デ)世界図(1554)	320
メルカトル(ゲラルドゥス)世界図(1538)	319-321, 386
メルカトル(ゲラルドゥス)世界図(1569)	377

ら行

リベイロ(ディオゴ)世界図(1525)	314
リベイロ(ディオゴ)世界図(1527)	314
リベイロ(ディオゴ)世界図(1529, ヴァチカン)	314
リベイロ(ディオゴ)世界図(1529, ワイマール)	315
琉球国図(17世紀末写本)	218
『梁氏家譜』	235
ルイシュ(ヨハanneス)世界図(1507)	44, 116
ルイス(ラザロ)地図帳(1563)	389
レイネル(ペドロ)アジア図(c. 1517)	95, 96, 100, 118, 119, 121
レイネル(ジョルジュ)世界図(c. 1519)	300, 301, 314
『歴史序説』	37
『歴代宝案』	4-8, 11, 18-25, 137, 141, 142, 147, 177, 181-225, 227, 234, 238, 243, 249-251, 256, 258, 262, 266, 268, 277, 284, 285, 291, 309, 327, 330, 332, 333, 398, 413, 416, 422
ロッツ(ジャン)地図帳(1542)	317
ロドリゲス(フランシスコ)地図帳(c. 1515)(ロドリゲス図)	16, 24, 54-103, 105, 116, 120, 122, 125, 126, 132, 148, 252, 288, 300, 316, 414

◎著者略歴◎

中 島 楽 章 (なかじま がくしょう)

1964年 長野県に生まれる

1989年 3月 早稲田大学文学研究科修士課程修了

1998年 博士(文学)(早稲田大学)

現在 九州大学大学院人文科学研究院 准教授

〔主著〕

『明代郷村の紛争と秩序——徽州文書を史料として——』(汲古書院、2002年)

『徽州商人と明清中国』(山川出版社、2009年)

〔編著〕

『南蛮・紅毛・唐人——一六・一七世紀の東アジア海域——』(思文閣出版、2013年)

だいこうかい じ だい かいいき りゅうきゅう
大航海時代の海域アジアと琉球
——レキオス^{もと}を求めて——

2020(令和2)年8月20日発行

著 者 中島楽章

発行者 田中 大

発行所 株式会社 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355

電話 075-533-6860

装 幀 小林 元

印 刷 株式会社 図書印刷 同朋舎
製 本

© G. Nakajima 2020

ISBN978-4-7842-1989-6 C3020